

## 列王紀上

## 第一章

「ダビデ王は年がすすんで老い、夜着を着せても暖まらなかつたので、二その家来たちは彼に言った、「王様が主のために、ひとりの若いおとめを捜し求めて王にはべらせ、王の付添いとし、あなたのふところに寝て、王様が主を暖めさせましよう」。三そして彼らはあまねくイスラエルの領土に美しいおとめを捜し求めて、シユナミびとアビシャグを得、王のもとに連れてきた。四おとめは非常に美しく、王の付添いとなって王に仕えたが、王は彼女を知ることがなかつた。

五さてハギテの子アドニヤは高ぶつて、「わたしは王となろう」と言い、自分のために戦車と騎兵および自分の前に駆ける者五十人を備えた。六彼の父は彼が生れてこのかた一度も「なぜ、そのような事をするのか」と言つて彼をたしなめたことがなかつた。アドニヤもまた非常に姿の良い人であつて、アブサロムの次に生れた者である。七彼がゼルヤの子ヨアブと祭司アビヤタルとに相談したので、彼らはアドニヤに従つて彼を助けた。八しかし祭司ザドクと、エホヤダの子ベナヤと、預言者ナタンおよびシメイとレイ、ならびにダビデの勇士たちはアドニヤに従わなかつた。

九アドニヤはエンロゲルのほとりにある「へびの石」のかたわらで、羊と牛と肥えた家畜をほふつて、王の子である自分の兄弟たち、および王の家来であるユダの人々をことごとく招いた。一〇しかし預言者ナタンと、ベナヤと、勇士たちと、自分の兄弟ソロモンとは招かなかつた。

二時にナタンはソロモンの母バテシバに言った、「ハギテの子アドニヤが王となつたのを聞きになりませんでしたか。われわれの主ダビデはそれをごぞんじないのです。三それでいま、あなたに計りごとを授けて、あなたの命と、あなたの子ソロモンの命を救うようにいたしましよう。四あなたはすぐダビデ王のところへ行つて、「王様が主よ、あなたは、はしたために誓つて、おまえの子ソロモンが、わたしに次いで王となり、わたしの位に座するであろうと言われたではありませんか。そうであるのに、どうしてアドニヤが王となつたのですか」と言いなさい。五あなたはあなたがお王と話しておられる間に、わたしもまた、あなたのあとから、はいつて行つて、あなたの言葉を確認しましょう」。

六そこでバテシバは寢室にはいつて王の所へ行つた。(王は非常に老いて、シユナミびとアビシャグが王に仕えていた)。七バテシバは身をかがめて王を拝した。王は言った、「何の用か」。八彼女は王に言った、「わが主よ、あなたは、あなたの神、主をさして、はしたために誓い、『おまえの子ソロモンがわたしに次いで王となり、わた

しの位に座するであろう』と言われました。一八そうであるのに、ごらんなさい、今アドニヤが王となりました。一九彼王が主よ、あなたはそれをごんじないのです。二〇彼は牛と肥えた家畜と羊をたくさんほふって、王の子たち、および祭司アビヤタルと、軍の長ヨアブを招きましたが、あなたのしもべソロモンは招きませんでした。二一王が主よ、イスラエルのすべての目はあなたに注がれ、だれがあなたに次いで、王が主の位に座すべきかを告げられるのを望んでいます。二二王が主が先祖と共に眠られるとき、わたしと、わたしの子ソロモンは謀叛人とみなされるでしょう。

二三バテシバがなお王と話しているうちに、預言者ナタンがはいってきた。二四人々は王に告げて、「預言者ナタンがここにおります」と言った。彼は王の前にはいり、地に伏して王を拝した。二五そしてナタンは言った、「王が主よ、あなたは、『アドニヤがわたしに次いで王となり、わたしの位に座するであろう』と仰せられましたか。二六彼はきょう下って行って、牛と、肥えた家畜と羊をたくさんほふって、王の子たちと、軍の長ヨアブと、祭司アビヤタルを招きました。彼らはアドニヤの前で食い飲みして、『アドニヤ万歳』と言いました。二七しかし、あなたのしもべであるわたしと、祭司ザドクと、エホヤダの子ベナヤと、あなたのしもべソロモンを招きませんでした。二八この事は王が主がさせられた事です。あなた

はしもべたちに、だれがあなたに次いで王が主の位に座すべきかを告げられませんでした」。

二九バデ王は答えて言った、「バテシバをわたしのところに呼びなさい」。彼女が王の前にはいつてきて、王の前に立った。三〇すると王は誓って言った、「わたしの命をすべての苦難から救われた主は生きておられる。三一わたしがイスラエルの神、主をさしてあなたに誓い、『あなたの子ソロモンがわたしに次いで王となり、わたしに代って、わたしの位に座するであろう』と言ったように、わたしはきょう、そのようにしよう」。三二そこでバテシバは身をかがめ、地に伏して王を拝し、「わが主バデ王が、とこしえに生きながらえられますように」と言った。

三三バデは言った、「祭司ザドクと、預言者ナタンおよびエホヤダの子ベナヤをわたしの所に呼びなさい」。やがて彼らは王の前にはきた。三四王は彼らに言った、「あなたがたの主君の家来たちを連れ、わが子ソロモンをわたしの騾馬に乗せ、彼を導いてギホンに下り、三五その所で祭司ザドクと預言者ナタンは彼に油を注いでイスラエルの王としなさい。そしてラッパを吹いて、『ソロモン万歳』と言いなさい。三六それから、あなたがたは彼に従って上ってきなさい。彼はきて、わたしの位に座し、わたしに代って王となるであろう。わたしは彼を立ててイスラエルとユダの上に主君とする」。三七エホヤダの子ベナヤは王に答えて言った、「アアメン、願わくは、王が主

君の神、主もまたそう仰せられますように。三十七 願わくは、主が王が主君と共におられたように、ソロモンと共におられて、その位をわが主君ダビデ王の位よりも大きくせられますように」。

三八 そこで祭司ザドクと預言者ナタンおよびエホヤダの子ベナヤ、ならびにケレテびとと、ペレテびとは下って行って、ソロモンをダビデ王の驃馬に乗せ、彼をギホンに導いて行った。三十九 祭司ザドクは幕屋から油の角を取ってきて、ソロモンに油を注いだ。そしてラツパを吹き鳴らし、民は皆「ソロモン王万歳」と言った。四十 民はみな彼に従って上り、笛を吹いて大いに喜び祝った。地は彼の声で裂けるばかりであった。

四二 アドニヤおよび彼と共にいた客たちは皆食事を終ったとき、これを聞いた。ヨアブはラツパの音を聞いて言った、「町の中あの騒ぎは何か」。四三 彼の言葉のなお終らないうちに、そこへ祭司アビヤタルの子ヨナタンがきたので、アドニヤは彼に言った、「はいりなさい。あなたは勇敢な人で、よい知らせを持ってきたのでしよう」。四四 ヨナタンは答えてアドニヤに言った、「いいえ、主君ダビデ王はソロモンを王とせられました。四五 王は祭司ザドクと預言者ナタンおよびエホヤダの子ベナヤ、ならびにケレテびとと、ペレテびとをソロモンと共につかわされたので、彼らはソロモンを王の驃馬に乗せて行き、祭司ザドクと預言者ナタンはギホンで彼に油を注いで王と

しました。そして彼らがそこから喜んで上って来るので、町が騒がしいのです。あなたが聞いた声はそれなのです。四六 こうしてソロモンは王の位に座し、四七 かつ王の家来たちがきて、主君ダビデ王に祝を述べて、『願わくは、あなたの神がソロモンの名をあなたの名よりも高くし、彼の位をあなたの位よりも大きくされますように』と言いました。そして王は床の上で拝されました。四八 王はまたこう言われました、『イスラエルの神、主はほむべきかな。主はきよう、わたしの位に座するひとりの子を与えて、これをわたしに見せてくださった』と。

四九 その時アドニヤと共にいた客はみな驚き、立っておのおの自分の道に去って行った。五〇 そしてアドニヤはソロモンを恐れ、立って行って祭壇の角をつかんだ。五一 ある人がこれをソロモンに告げて言った、「アドニヤはソロモンを恐れ、今彼は祭壇の角をつかんで、『どうぞ、ソロモン王がきよう、つるぎをもつてもべを殺さないとおたしに誓ってくださいるよう』と云っています」。五二 ソロモンは言った、「もし彼がよい人となるならば、その髪の毛ひとすじも地に落ちることはなからう。しかし彼のうちに悪のあることがわかるならば、彼は死ななければならぬ」。五三 ソロモンは人をつかわして彼を祭壇からつれて下らせた。彼がきてソロモンを拝したので、ソロモンは彼に「家に帰りなさい」と言った。

第二章 ダビデの死ぬ日が近づいたので、彼



はその子ソロモンに命じて言った、「三わたしは世のすべての人の行く道を行こうとしている。あなたは強く、男らしくなければならぬ。三あなたの神、主のさとしを守り、その道に歩み、その定めと戒めと、おきてとあかしとを、モーセの律法にしるされておるとおりに守らなければならぬ。そうすれば、あなたがするすべての事と、あなたの向かうすべての所で、あなたは栄えるであらう。四また主がさきにわたしについて語って『もしおまえの子たちが、その道を慎み、心をつくし、精神をつくして真実をもって、わたしの前に歩むならば、おまえに次いでイスラエルの位にのぼる人が、欠けることはなからう』と言われた言葉を確実にされるであらう。

五またあなたはゼルヤの子ヨアブがわたしにした事、すなわち彼がイスラエルのふたりの軍の長ネルの子アブネルと、エテルの子アマサにした事を知っている。彼はこのふたりを殺して、戦争で流した血を太平の時に報い、罪のない者の血をわたしの腰のまわりの帯と、わたしの足のくつにつけた。六それゆえ、あなたの知恵にしたがって事を行い、彼のしらがを安らかに陰府に下らせてはならない。七ただしギレアデびとバルジライの子らには恵みを施し、彼らをあなたの食卓で食事する人々のうちに加えなさい。彼らはわたしがあなたの兄弟アブサロムを避けて逃げた時、わたしを迎えてくれたからである。八またバホルムのベニヤミンびとゲラの子シメイが

あなたと共にいる。彼はわたしがマハナイムへ行つた時、激しいのろいの言葉をもってわたしをのろった。しかし彼がヨルダンへ下つてきて、わたしを迎えたので、わたしは主をさして彼に誓い、『わたしはつるぎをもってあなたを殺さない』と言った。九しかし彼を罪のない者としてはならない。あなたは知恵のある人であるから、彼になすべき事を知っている。あなたは彼のしらがを血に染めて陰府に下らせなければならぬ。

一〇ダビデはその先祖と共に眠って、ダビデの町に葬られた。一一ダビデがイスラエルを治めた日数は四十年であつた。すなわちヘブロンで七年、エルサレムで三十三年、王であつた。一二このようにしてソロモンは父ダビデの位に座し、国は堅く定まつた。

一三さて、ハギテの子アドニヤがソロモンの母バテシバのところへきたので、バテシバは言った、「あなたは穏やかな事のためにきたのですか」。彼は言った、「穏やかな事のためです」。一四彼はまた言った、「あなたに申しあげる事があります」。バテシバは言った、「言いなさい」。一五彼は言った、「ごぞんじのように、国はわたしのもので、イスラエルの人は皆わたしが王になるものと期待していました。しかし国は転じて、わたしの兄弟のものとなりました。彼のものとなったのは主から出たことです。一六今わたしはあなたに一つのお願ひがあります。断らないでください」。バテシバは彼に言った、「言いなさい」。

「彼は言った、「どうかソロモン王に請うて、——王はあなたに断るようなことはないでしょうから——シユナミとアビシヤグをわたしに与えて妻にさせてください」。

「ハバテシバは言った、「よろしい。わたしはあなたのために王に話しましょう」。

「九バテシバはアドニヤのためにソロモン王に話した。王のもとへ行った。王は立って迎え、彼女を拝して王座に着き、王母のために座を設けさせたので、彼女は王の右に座した。二〇そこでバテシバは言った、「あなたに一つの小さいお願いがあります。お断りにならないでください」。

王は彼女に言った、「母上よ、あなたの願いを言ってください。わたしは断らないでしょう」。

三彼女は言った、「どうぞ、シユナミとアビシヤグをあなたの兄弟アドニヤに与えて、妻にさせてください」。

三ソロモン王は答えて母に言った、「どうしてアドニヤのためにシユナミとアビシヤグを求められるのですか。彼のためには国をも求めなさい。彼はわたしの兄で、彼の味方には祭司アビヤタルとゼルヤの子ヨアブがいるのですから」。

三三そしてソロモン王は主をさして誓って言った、「もしアドニヤがこの言葉によって自分の命を失うのであれば、どんなにでもわたしを罰してください」。

三四わたしを立てて、父ダビデの位にのぼらせ、主が約束されたように、わたしに一家を与えてくださった主は生きておられる。アドニヤはきよう殺されなければならない」。

三五ソロモン王はエホヤダの子ベナヤをつかわしたので、彼はアドニヤを撃つて殺した。

二六王はまた祭司アビヤタルに言った、「あなたの領地アトテへ行きなさい。あなたは死に当る者ですが、さきにわたしの父ダビデの前に神、主の箱をかつぎ、またすべてわたしの父が受けた苦しみを、あなたも共に苦しんだので、わたしは、きようは、あなたを殺しません」。

二七そしてソロモンはアビヤタルを主の祭司職から追放した。こうして主がシロでエリの家について言われた主の言葉が成就した。

二八さてこの知らせがヨアブに達したので、ヨアブは主の幕屋にのがれて、祭壇の角をつかんだ。ヨアブはアブサロムを支持しなかったけれども、アドニヤを支持したからである。二九ヨアブが主の幕屋にのがれて、祭壇のかたわらにゐることを、ソロモン王に告げる者があつたので、ソロモンはエホヤダの子ベナヤをつかわし、「行って彼を撃て」と言った。三〇ベナヤは主の幕屋へ行って彼に言った、「王はあなたに、出て来るようにと申されます」。

三〇しかし彼は言った、「いや、わたしはここで死にます」。

三二ベナヤは王に復命して言った、「ヨアブはこう申しました。またわたしにこう答えました」。

三三そこで王はベナヤに言った、「彼が言うようにし、彼を撃ち殺して葬り、ヨアブがゆえなく流した血のとがをわたしと、わたしの父の家から除き去りなさい。三三主はまたヨアブが血を流

した行為を、彼自身（かれじしん）のこうべに報（むく）いられるであろう。これは彼（かれ）が自分（じぶん）よりも正しい（ただ）いすぐれたふたりの人（ひと）、すなわちイスラエルの軍（ぐん）の長（ちやう）ネルの子（こ）アブネルと、ユダの軍（ぐん）の長（ちやう）エテルの子（こ）アマサを、つるぎをもって撃（う）ち殺（ころ）し、わたしの父（ちち）ダビデのあずかり知（し）らない事（こと）をしたからである。

三三 それゆえ、彼（かれ）らの血（ち）は永遠（えいゑん）にヨアブのこうべと、その子（し）孫（そん）のこうべに帰（か）すであろう。しかしダビデと、その子（し）孫（そん）と、その家（いえ）と、その位（ゐ）には、主（しゅ）から賜（たま）はる平安（へいあん）が永久（きゆう）にあるであろう。三四 そこでエホヤダの子（こ）ベナヤは上（のぼ）っていつて、彼（かれ）を撃（う）ち殺（ころ）した。彼は荒（あら）野（や）にある自分（じぶん）の家（いえ）に葬（はうむ）られた。三五 王（おう）はエホヤダの子（こ）ベナヤを、ヨアブに代（かわ）つて軍（ぐん）の長（ちやう）とした。王（おう）はまた祭司（さいし）ザドクをアビヤタルに代（かわ）らせた。

三六 また王（おう）は人（ひと）をつかわし、シメイを召（よ）して言（い）つた、「あなたはエルサレムのうちに、自分（じぶん）のために家（いえ）を建てて、そこに住（す）み、そこからどこへも出（で）てはならない。三七 あなたが出（で）て、キデロン川（がわ）を渡（わた）る日には、必ず殺（ころ）されることを、しかと知（し）なければならぬ。あなたの血（ち）はあなたのこうべに帰（か）すであろう。三八 シメイは王（おう）に言（い）つた、「お言葉（ことば）は結構（けつこう）です。王（おう）、わが主（しゅ）の仰（おほ）せられるとおりに、しもべはいたしましょう。こうしてシメイは久（ひさ）しくエルサレムに住（す）んだ。

三九 ところが三年（さんねん）の後（のち）、シメイのふたりの奴隸（どれい）が、ガテの王（おう）マアカの子（こ）アキシのところへ逃（に）げ去（さ）った。人々（ひとびと）がシ

メイに告（つ）げて、「ごらんない、あなたの奴隸（どれい）はガテにいます」と言（い）つたので、四〇 シメイは立（た）つて、ろばにくら置き、ガテのアキシのところへ行（い）つて、その奴隸（どれい）を尋（たず）ねた。すなわちシメイは行（い）つてその奴隸（どれい）をガテから連（つ）れてきたが、四一 シメイがエルサレムからガテへ行（い）つて帰（か）つたことがソロモン王（おう）に聞（き）えたので、四二 王（おう）は人（ひと）をつかわし、シメイを召（よ）して言（い）つた、「わたしはあなたに主（しゅ）をさして誓（ちか）わせ、かつおごそかにあなたを戒（い）めて、『あなたが出（で）て、どこかへ行（い）く日には、必ず殺（ころ）されることを、しかと知（し）なければならぬ』と言（い）つたではないか。そしてあなたは、わたしに『お言葉（ことば）は結構（けつこう）です。従（したが）います』と言（い）つた。四三 ところで、あなたはなぜ主（しゅ）に対する誓（ちか）いと、わたしが命（いのち）じた命令（めいれい）を守（まも）らなかつたのか。四四 王（おう）はまたシメイに言（い）つた、「あなたは自分の心（こころ）に、あなたがわたしの父（ちち）ダビデにしたもろもろの悪（あく）を知（し）っている。主（しゅ）はあなたの悪（あく）をあなたのこうべに報（むく）いられるであろう。四五 しかしソロモン王（おう）は祝福（しゅくふく）をうけ、ダビデの位（くら）は永久（えいきゆう）に主（しゅ）の前に堅（かた）く立つてであろう。四六 王（おう）がエホヤダの子（こ）ベナヤに命（めい）じたので、彼は出（で）ていつてシメイを撃（う）ち殺（ころ）した。

四七 こうして国（くに）はソロモン王（おう）の手に堅（かた）く立（た）った。

第三章 一 ソロモン王（おう）はエジプトの王（おう）パロと縁（むす）び、パロの娘（むすめ）をめとつてダビデの町（まち）に連（つ）れてきて、自分（じぶん）の家（いえ）と、主（しゅ）の宮（みや）と、エルサレムの周囲（しゅうい）の城（じやう）壁（へき）を建て終（おわ）るまでそこにおらせた。二 そのころまで主（しゅ）の名（な）のため



に建てた宮がなかったので、民は高き所で犠牲をささげていた。

三 ソロモンは主を愛し、父ダビデの定めに歩んだが、ただ彼は高き所で犠牲をささげ、香をたいた。四 ある日、王はギベオンへ行つて、そこで犠牲をささげようとした。それが主要な高き所であつたからである。ソロモンは一千の燔祭をその祭壇にささげた。五 ギベオンで主は夜の夢にソロモンに現れて言われた、「あなたに何を与えようか、求めなさい」。六 ソロモンは言った、「あなたのしもべであるわたしの父ダビデがあなたに対して誠実と公義と真心とをもつて、あなたの前に歩んだので、あなたは大きいなるいつくしみを彼に示されました。またあなたは彼のために、この大きいなるいつくしみをたくわえて、今日、彼の位に座する子を授けられました。七 わが神、主よ、あなたはこのしもべを、わたしの父ダビデに代つて王とならせられました。しかし、わたしは小さい子供であつて、出入りすることを知りません。八 かつ、しもべはあなたが選ばれた、あなたの民、すなわちその数が多くて、数えることも、調べることもできないほどのおびただしい民の中におります。九 それゆえ、聞きわけの心をしもべに与えて、あなたの民をさばかせ、わたしに善悪をわきまえることを得させてください。だが、あなたのこの大きいなる民をさばくことができましよう」。一〇 ソロモンはこの事を求めたので、そのことが主のみ

こころにかなつた。二 そこで神は彼に言われた、「あなたはこの事を求めて、自分のために長命を求めず、また自分のために富を求めず、また自分の敵の命をも求めず、ただ訴えをききわけける知恵を求めたゆえに、三 見よ、わたしはあなたの言葉にしたがつて、賢い、英明な心を与える。あなたの先にはあなたに並ぶ者がなく、あなたの後にもあなたに並ぶ者は起らないであらう。四 わたしはまたあなたの求めないもの、すなわち富と誉をもあなたに与える。あなたの生きてゐるかぎり、王たちのうちにあなたに並ぶ者はないであらう。五 もしあなたが、あなたの父ダビデの歩んだように、わたしの道に歩んで、わたしの定めと命令とを守るならば、わたしはあなたの日を長くするのであらう」。

一五 ソロモンが目をさましてみると、それは夢であつた。そこで彼はエルサレムへ行き、主の契約の箱の前に立つて燔祭と酬恩祭をささげ、すべての家来のために祝宴を設けた。

一六 さて、ふたりの遊女が王のところにきて、王の前に立つた。一七 ひとりの女は言つた、「ああ、わが主よ、この女とわたしとはひとつの家に住んでいますが、わたしはこの女と一緒に家にいる時、子を産みました。一八 ところがわたしの産んだ後、三日目にこの女もまた子を産みましたが、そしてわたしたちは一緒にいましたが、家にはほかにだれもわたしたちと共にいた者はなく、ただわたした

ちふたりだけでした。「九ところがこの女は自分の子の上  
に伏したので、夜のうちにその子は死にました。二〇彼女  
は夜中に起きて、はしための眠っている間に、わたしの  
子をわたしのかたわらから取って、自分のふところに寝  
かせ、自分の死んだ子をわたしのふところに寝かせまし  
た。三わたしは朝、子に乳を飲ませようとして起きて見  
ると死んでいました。しかし朝になってよく見ると、そ  
れはわたしが産んだ子ではありませんでした。三ほか  
の女は言った、「いいえ、生きているのがわたしの子です。  
死んだのはあなたの子です」。初めの女は言った、「いい  
え、死んだのがあなたの子です。生きているのはわたし  
の子です」。彼らはこのように王の前に言い合った。

三この時、王は言った、「ひとりはこの生きているの  
がわたしの子で、死んだのはあなたの子だ」と言い、ま  
たひとりはいえ、死んだのがあなたの子で、生きて  
いるのはわたしの子だ」と言う。二四そこで王は「刀を  
持つてきなさい」と言ったので、刀を王の前に持つてき  
た。二五王は言った、「生きている子を二つに分けて、半分  
をこちらに、半分をあちらに与えよ」。二六すると生きて  
いる子の母である女は、その子のために心がやけるよう  
になって、王に言った、「ああ、わが主よ、生きている子  
を彼女に与えてください。決してそれを殺さないでくだ  
さい」。しかしほかのひとりは言った、「それをわたしの  
ものにも、あなたのものにもしないで、分けてくださ

い」。二七すると王は答えて言った、「生きている子を初め  
の女に与えよ。決して殺してはならない。彼女はその母  
なのだ」。二八イスラエルは皆王が与えた判決を聞いて王  
を恐れた。神の知恵が彼のうちにあつて、さばきをする  
のを見たからである。

第四章 ソロモン王はイスラエルの全地の王  
であつた。二彼の高官たちは次のとおりである。ザドク  
の子アザリヤは祭司。三シシャの子エリホレフとアヒヤ  
は書記官。アヒルデの子ヨシヤバテは史官。四エホヤダ  
の子ベナヤは軍の長。ザドクとアビヤタルは祭司。五ナ  
タンの子アザリヤは代官の長。ナタンの子ザブデは祭司  
で、王の友であつた。六アヒシャルは宮内卿。アブダの  
子アドニラムは徴募の長であつた。

七ソロモンはまたイスラエルの全地に十二人の代官を  
置いた。その人々は王とその家のために食物を備えた。  
すなわちおのおの一年に一月づつ食物を備えるのであつ  
た。八その名は次のとおりである。エフライムの山地に  
はベンホル。九マカツと、シヤラビムと、ベテシメシと、  
エロン。ベテハナンにはベンデケル。一〇アルボテにはベ  
ンヘセデ。(彼はソコとヘベルの全地を担当した)。二ド  
ルの高地の全部にはベン・アビナダブ。(彼はソロモンの  
娘タバテを妻とした)。三アヒルデの子バアナはタアナ  
クとメギドと、エズレルの下、ザレタンのかたわらにあ  
るベテシヤンの全地を担当して、ベテシヤンからアベル・



メホラに至り、ヨクメアムの向こうにまで及んだ。三、  
モテ・ギレアデにはベングベル、(彼はギレアデにあるマ  
ナセの子ヤイルの村々を担当し、またバシヤンにあるア  
ルゴブの地方の城壁と青銅の貫の木のある大きな町六十  
を担当した)。四、マハナイムにはイドの子アヒナダブ。  
五、ナフタリにはアヒマアズ、(彼もソロモンの娘バスマテ  
を妻にめとった)。六、アセルとベアロテにはホシヤイの  
子バアナ。七、イッサカルにはバルアの子ヨシヤバテ。  
八、ベニヤミンにはエラの子シメイ。九、アモリびとの王シ  
ホンの地およびバシヤンの王オグの地なるギレアデの地  
にはウリの子ゲベル。彼はその地のただひとりの代官で  
あった。

二〇、ユダとイスラエルの人々は多くて、海への砂のよう  
であったが、彼らは飲み食いして楽しんだ。二一、ソロモン  
はユフラテ川からベリシテびとの地と、エジプトの境に  
至るまでの諸国を治めたので、皆みつぎ物を携えてきて、  
ソロモンの一生のあいだ仕えた。

二二、さてソロモンの一日の食物は細かい麦粉三十コル、  
荒い麦粉六十コル、二三、肥えた牛十頭、牧場の牛二十頭、  
羊百頭で、そのほかに雄じか、かもしか、こじか、およ  
び肥えた鳥があった。二四、これはソロモンがユフラテ川の  
西の地方をテフサからガザまで、ことごとく治めたから  
である。すなわち彼はユフラテ川の西の諸王をことごと  
く治め、周囲至る所に平安を得た。二五、ソロモンの一生の

間、ユダとイスラエルはダンからベエルシバに至るまで、  
安らかにのおの自分たちのぶどうの木の下と、いちじ  
くの木の下に住んだ。二六、ソロモンはまた戦車の馬の、う  
まや四千と、騎兵一万二千を持っていた。二七、そしてそれ  
らの代官たちはおのおの当番の月にソロモン王のため、  
およびすべてソロモン王の食卓に連なる者のために、食  
物を備えて欠けることのないようにした。二八、また彼らは  
おのおのその割当にしたがって馬および早馬に食わせる  
大麦とわらを、その馬のいる所に持ってきた。

二九、神はソロモンに非常に多くの知恵と悟りを授け、ま  
た海への砂原のように広い心を授けられた。三〇、ソロモン  
の知恵は東の人々の知恵とエジプトのすべての知恵にま  
さった。三一、彼はすべての人よりも賢く、エズラびとエタ  
ンよりも、またマホルの子ヘマン、カルコル、ダルダ  
よりも賢く、その名声は周囲のすべての国々に聞えた。  
三二、彼はまた箴言三千を説いた。またその歌は一千五首  
あった。三三、彼はまた草木のことを論じてレバノンの香柏  
から石がきにはえるヒソブにまで及んだ。彼はまた獣と  
鳥と這うものと魚のことを論じた。三四、諸国の人々はソロ  
モンの知恵を聞くためにきた。地の諸王はソロモンの知  
恵を聞いて人をつかわした。

第五章 一、さてツロの王ヒラムは、ソロモンが  
油を注がれ、その父に代って、王となつたのを聞いて、  
家来をソロモンにつかわした。ヒラムは常にダビデを愛

したからである。ニそこでソロモンはヒラムに人をつかわして言った、三「あなたの知られるとおり、父ダビデはその周囲にあった敵との戦いのゆえに、彼の神、主の名のために宮を建てることができず、主が彼らをその足の裏の下に置かれるのを待ちました。四ところが今わが神、主はわたしに四方の太平を賜わって、敵もなく、災もなくなつたので、五主が父ダビデに『おまえに代つて、おまえの位に、わたしがつかせるおまえの子、その人がわが名のために宮を建てるであらう』と言われたように、わが神、主の名のために宮を建てようと思います。六それゆえ、あなたは命令を下して、レバノンの香柏をわたしのために切り出させてください。わたしのしもべたちをあなたのしもべたちと一緒に働かせます。またわたしはすべてあなたのとおしやるとおり、あなたのしもべたちの賃銀をあなたに払います。あなたの知られるとおり、わたしたちのうちにはシドンびとのように木を切るに巧みな人がないからです」。

七ヒラムはソロモンの言葉を聞いて大いに喜び、「きょう、主はあがむべきかな。主はこのおびただしい民を治める賢い子をダビデに賜わった」と言った。八そしてヒラムはソロモンに人をつかわして言った、「わたしはあなたに申しおくられたことを聞きました。香柏の材木と、いとすぎの材木については、すべてお望みのようにいたします。九わたしのしもべどもにそれをレバノンから海

に運びおろさせましょう。わたしはそれをいかに組んで、海路、あなたの指示される場所まで送り、そこでそれをくずしましょう。あなたはそれを受け取ってください。また、あなたはわたしの家のために食物を供給して、わたしの望みをかなえてください。一〇こうしてヒラムはソロモンにすべて望みのように香柏の材木と、いとすぎの材木を与えた。二またソロモンはヒラムにその家の食物として小麦二万コルを与え、またオリブをつぶして取った油二万コルを与えた。このようにソロモンは年々ヒラムに与えた。三主は約束されたようにソロモンに知恵を賜わった。またヒラムとソロモンの間は平和であつて、彼らふたりは条約を結んだ。

一三ソロモン王はイスラエルの全地から強制的に労働者を徴募した。その徴募人員は三万人であつた。一四ソロモンは彼らを一月交代に一人ずつレバノンにつかわした。すなわち一月レバノンに、二月家にあり、アドニラムは徴募の監督であつた。一五ソロモンにはまた荷を負う者が七万人、山で石を切る者が八万人あつた。一六ほかにソロモンには工事を監督する上役の官吏が三千三百人あつて、工事に働く民を監督した。一七王は命じて大きい高価な石を切り出させ、切り石をもつて宮の基をすえさせた。一八こうしてソロモンの建築者と、ヒラムの建築者およびゲバルびとは石を切り、材木と石とを宮を建てるために備えた。

## 第六章

イスラエルの人々がエジプトの地を出て後四百八十年、ソロモンがイスラエルの王となつて第四年のジフの月すなわち二月に、ソロモンは主のために宮を建てることを始めた。ニソロモン王が主のために建てた宮は長さ六十キュビト、幅二十キュビト、高さ三十キュビトであつた。三宮の拝殿の前の廊は宮の幅にしたがつて長さ二十キュビト、その幅は宮の前で十キュビトであつた。四彼は宮に、内側の広い枠の窓を造つた。五また宮の壁につけて周囲に脇屋を設け、宮の壁すなわち拝殿と本殿の壁の周囲に建てめぐらし、宮の周囲に脇間があるようにした。六下の脇間は長さ五キュビト、中は長さ六キュビト、第三のは長さ七キュビトであつた。宮の外側には壁に段を造つて、梁を宮の壁の中に差し込まないようにした。

七宮は建てる時に、石切り場で切り整えた石をもつて造つたので、建てている間は宮のうちには、つちも、おのも、その他の鉄器もその音が聞えなかつた。

八下の脇間の入口は宮の右側にあり、回り階段によつて中の脇間に、中の脇間から第三の脇間にのぼつた。九こうして彼は宮を建て終り、香柏のたるきと板をもつて宮の天井を造つた。一〇また宮につけて、おのおの高さ五キュビトの脇間のある脇屋を建てめぐらし、香柏の材木をもつて宮に接続させた。

二そこで主の言葉がソロモンに臨んだ、三「あなたが

建てるこの宮については、もしあなたがわたしの定めに歩み、おきてを行い、すべての戒めを守り、それに従つて歩むならば、わたしはあなたの父ダビデに約束したことを成就する。三そしてわたしはイスラエルの人々のうちに住み、わたしの民イスラエルを捨てることはない。四こうしてソロモンは宮を建て終つた。五彼は香柏の板をもつて宮の壁の内側を張つた。すなわち宮の床から天井のたるきまで香柏の板で張つた。また、いとすぎの板をもつて宮の床を張つた。六また宮の奥に二十キュビトの室を床から天井のたるきまで香柏の板をもつて造つた。すなわち宮の内に至聖所としての本殿を造つた。七宮すなわち本殿の前にある拝殿は長さ四十キュビトであつた。八宮の内側の香柏の板は、ひさごの形と、咲いた花を浮彫りにしたもので、みな香柏の板で、石は見えなかつた。九そして主の契約の箱を置くために、宮の内奥に本殿を設けた。一〇本殿は長さ二十キュビト、幅二十キュビト、高さ二十キュビトであつて、純金でこれをおおつた。また香柏の祭壇を造つた。三ソロモンは純金をもつて宮の内側をおおい、本殿の前に金の鎖をもつて隔てを造り、金をもつてこれをおおつた。三また金をもつて残らず宮をおおい、ついに宮を飾ることをことごとく終えた。また本殿に属する祭壇をことごとく金でおおつた。

三本殿のうちにオリブの木をもつて二つのケルビムを



造った。その高さはおのおの十キュビト。二四そのケルブの一つの翼の長さは五キュビト、またそのケルブの他の翼の長さも五キュビトであつた。一つの翼の端から他の翼の端までは十キュビトであつた。二五他のケルブも十キュビトであつて、二つのケルブは同じ寸法、同じ形であつた。二六このケルブの高さは十キュビト、かのケルブの高さも同じであつた。二七ソロモンは宮のうちの奥にケルブをすえた。ケルブの翼を伸ばしたところ、このケルブの翼はこの壁に達し、かのケルブの翼はかの壁に達し、他の二つの翼は宮の中で互に触れ合つた。二八彼は金をもつてそのケルブをおおつた。

二九彼は宮の周囲の壁に、内外の室とも皆ケルブと、しゅろの木と、咲いた花の形の彫り物を刻み、三〇宮の床は、内外の室とも金でおおつた。

三本殿の入口にはオリブの木のとびらを造つた。そのとびらの上のかまちと脇柱とで五辺形をなしてゐた。三三その二つのとびらもオリブの木であつて、ソロモンはその上にケルブと、しゅろの木と、咲いた花の形を刻み、金をもつておおつた。すなわちケルブと、しゅろの木の上に金を着せた。

三三こうしてソロモンはまた拝殿の入口のためにオリブの木で四角の形に脇柱を造つた。三三その二つのとびらはいとすぎであつて、一つのとびらは二つにたたむ折り戸であり、他のとびらも二つにたたむ折り戸であつた。

三五ソロモンはその上にケルブと、しゅろの木と、咲いた花を刻み、金をもつて彫り物の上を形どおりにおおつた。三六また切り石三かさねと、香柏の角材ひとかさねとをもつて内庭を造つた。

三七第四年のジフの月に主の宮の基をすえ、三八第十一年のブルの月すなわち八月に、宮のすべての部分が設計どおりに完成した。ソロモンはこれを建てるのに七年を要した。

第七章 一またソロモンは自分の家を建てたが、十三年かかつてその家を全部建て終つた。

二彼はレバノンの森の家を建てた。長さ百キュビト、幅五十キュビト、高さ三十キュビトで、三列の香柏の柱があり、その柱の上に香柏の梁があつた。三四十五本の柱の上にある室は香柏の板でおおつた。柱は各列十五本あつた。四五また窓わくが三列あつて、窓と窓と三段に向かい合つてゐた。五戸口と窓はみな四角の枠をもち、窓と窓と三段に向かい合つた。

六また柱の広間を造つた。長さ五十キュビト、幅三十キュビトであつた。柱の前に一つの広間があり、その玄関に柱とひさしがあつた。

七またソロモンはみづから審判をするために玉座の広間、すなわち審判の広間を造つた。床からたるきまで香柏をもつておおつた。

八ソロモンが住んだ宮殿はその広間のうしろの他の庭

にあつて、その造作は同じであつた。ソロモンはまた彼がめとつたパロの娘のために家を建てたが、この広間と同じであつた。

九これらはみな内外とも、土台から軒まで、また主の宮の庭から大庭まで、寸法に合わせて切つた石、すなわち、のこぎりでひいた高価な石で造られた。一〇また土台は高価な石、大きな石、すなわち八キュビトの石、十キュビトの石であつた。二その上には寸法に合わせて切つた高価な石と香柏とがあつた。三また大庭の周囲には三かさねの切り石と、一かさねの香柏の角材があつた。主の宮の内庭と宮殿の広間の庭の場合と同じである。

三ソロモン王は人をつかわしてツロからヒラムを呼んできた。一四彼はナフタリの部族の寡婦の子であつて、その父はツロの人で、青銅の細工人であつた。ヒラムは青銅のいろいろな細工をする知恵と悟りと知識に満ちた者であつたが、ソロモン王のところに来て、そのすべての細工をした。

二五彼は青銅の柱二本を鑄た。一本の柱の高さは十八キュビト、そのまわりは綱をもつて測ると十二キュビトあり、指四本の厚さで空洞であつた。他の柱も同じである。一六また青銅を溶かして柱頭二つを造り、柱の頂にすえた。その一つの柱頭の高さは五キュビト、他の柱頭の高さも五キュビトであつた。一七柱の頂にある柱頭のために鎖に編んだ飾りひもで市松模様の網細工二つを造つ

た。すなわちこの柱頭のために一つ、かの柱頭のために一つを造つた。一八またざくろを造つた。すなわち二並びのざくろを一つの網細工の上のまわりに造つて、柱の頂にある柱頭を巻いた。他の柱頭にも同じようにした。一九この廊の柱の頂にある柱頭の上に四キュビトのゆりの花の細工があつた。二〇二つの柱の上端の丸い突出部の上にある網細工の柱頭の周囲には、おのおの二百のざくろが二並びになつていた。二一この柱を神殿の廊に立てた。すなわち南に柱を立てて、その名をヤキンと名づけ、北に柱を立てて、その名をボアズと名づけた。二三その柱の頂にはゆりの花の細工があつた。こうしてその柱の造作ができあがつた。

二四また海を鑄て造つた。縁から縁まで十キュビトであつて、周囲は円形をなし、高さ五キュビトで、その周囲は綱をもつて測ると三十キュビトであつた。二五その縁の下には三十キュビトの周囲をめぐむひさごがあつて、海の周囲を囲んでいた。そのひさごは二並びで、海を鑄る時に鑄たものである。二六その海は十二の牛の上に置かれ、その三つは北に向かい、三つは西に向かい、三つは南に向かい、三つは東に向かつていた。海はその上に置かれ、牛のうしろは皆内に向かつていた。二七海の厚さは手の幅で、その縁は杯の縁のように、ゆりの花に似せて造られた。海には水が二千バテはいつた。

二八また青銅の台を十個造つた。台は長さ四キュビト

幅四キュビト、高さ二キュビトであつた。二八その台の構造は次のとおりである。台には鏡板があり、鏡板は梓の中にあつた。二九梓の中にある鏡板には、ししと牛とケルビムとがあり、また、ししと牛の上と下にある梓の斜面には花飾りが細工してあつた。三〇また台にはおのおの四つの青銅の車輪と、青銅の車軸があり、その四すみには洗盤のささえがあつた。そのささえは、おのおの花飾りのかたわらに鑄て造りつけてあつた。三一その口は一キュビト上に突き出て、台の頂の内にあり、その口は丸く、台座のように造られ、深さ一キュビト半であつた。またその口には彫り物があつた。その鏡板は四角で、丸くなかつた。三二四つの車輪は鏡板の下にあり、車軸は台に取り付けてあり、車輪の高さはおのおの一キュビト半であつた。三三車輪の構造は戦車の車輪の構造と同じで、その車軸と縁と輻と轂とはみな鑄物であつた。三四おのおの台の四すみに四つのささえがあり、そのささえは台の一部をなしていた。三五台の上には高さ半キュビトの丸い帯輪があつた。そして台の上にあるその支柱と鏡板とはその一部をなしていた。三六その支柱の表面と鏡板にはそれぞれの場合に、ケルビムと、ししと、しゆろを刻み、またその周囲に花飾りを施した。三七このようにして十個の台を造つた。それはみな同じ鑄方、同じ寸法、同じ形であつた。

三八また青銅の洗盤を十個造つた。洗盤はおのおの四十

バテの水がはいり、洗盤はおのおの四キュビトであつた。十個の台の上にはおのおの一つずつの洗盤があつた。三九その台の五個を宮の南の方に、五個を宮の北の方に置き、宮の東南の方に海をすえた。

四〇ヒラムはまたつばと十能と鉢を造つた。こうしてヒラムはソロモン王のために主の宮のすべての細工をなし終えた。四一すなわち二本の柱と、その柱の頂にある柱頭の二つの玉と、柱の頂にある柱頭の二つの玉をおおう二つの網細工と、四二その二つの網細工のためのさくろ四百。このさくろは一つの網細工に、二並びにつけて、柱の頂にある柱頭の二つの玉を巻いた。四三また十個の台と、その台の上の十個の洗盤と、四四一つの海と、その海の下十二の牛とであつた。

四五さてつばと十能と鉢、すなわちヒラムがソロモン王のために造つた主の宮のこれらの器はみな光のある青銅であつた。四六王はヨルダンの低地で、スコテとザレタンとの間の粘土の地でこれらを鑄た。四七ソロモンはその器が非常に多かつたので、皆それをはからずにおいた。その青銅の重さは、はかり得なかつた。

四八またソロモンは主の宮にあるもろもろの器を造つた。すなわち金の祭壇と、供えのパンを載せる金の机、四九および純金の燭台。この燭台は本殿の前に、五つは南に、五つは北にあつた。また金の花と、ともしび皿と、心かきと、五〇純金の皿と、心切りばさみと、鉢と、香の



杯と、心取り皿と、至聖所である宮の奥のとびらのため  
および、宮の拝殿のとびらのために、金のひじつぽを  
造った。

五 こうしてソロモン王が主の宮のために造るすべての  
細工は終わった。そしてソロモンは父ダビデがさげた物、  
すなわち金銀および器物を携え入り、主の宮の宝蔵の中  
にたくわえた。

## 第八章

一 ソロモンは主の契約の箱をダビデの

町、すなわちシオンからかつぎ上ろうとして、イスラエ  
ルの長老たちと、すべての部族のかしらたちと、イスラ  
エルの人々の氏族の長たちをエルサレムでソロモン王の  
もとに召し集めた。ニイスラエルの人は皆エタニムの月  
すなわち七月の祭にソロモン王のもとに集まった。ミイ  
スラエルの長老たちが皆来たので、祭司たちは箱を取り  
あげた。そして彼らは主の箱と、会見の幕屋と、幕屋  
にあるすべての聖なる器をかつぎ上った。すなわち祭司  
とレビびとがこれらの物をかつぎ上った。五 ソロモン王  
および彼のもとに集まったイスラエルの会衆は皆彼と共に  
箱の前で、羊と牛をささげたが、その数が多くて調べ  
ることも数えることもできなかった。六 祭司たちは主の  
契約の箱をその場所にかつぎ入れた。すなわち宮の本殿  
である至聖所のうちのケルビムの翼の下に置いた。七 ケ  
ルビムは翼を箱の所に伸べていたので、ケルビムは上か  
ら箱とそのさおをおおった。八 さおは長かったので、さ

おの端が本殿の前の聖所から見えた。しかし外には見え  
なかった。そのさおは今日までそこにある。九 箱の内に  
は二つの石の板のほか何もなかった。これはイスラエル  
の人々がエジプトの地から出たとき、主が彼らと契約を  
結ばれたときに、モーセがホレブで、それに納めたもの  
である。一〇そして祭司たちが聖所から出たとき、雲が主  
の宮に満ちたので、二祭司たちは雲のために立って仕え  
ることができなかった。主の栄光が主の宮に満ちたから  
である。

二 そこでソロモンは言った、

「主は日を天に置かれた。

三 わたしはあなたのために高き家、

とこしえのみすまいを建てた」。

四 王は身をめぐらして、イスラエルのすべての会衆を祝  
福した。その時イスラエルのすべての会衆は立ってい  
た。五 彼は言った、「イスラエルの神、主はほむべきか  
な。主はその口をもってわたしの父ダビデに約束された  
ことを、その手をもってなし遂げられた。主は言われた、  
『わが民イスラエルをエジプトから導き出した日から、  
わたしはわたしの名を置くべき宮を建てるために、イス  
ラエルのもろもろの部族のうちから、どの町をも選んだ  
ことがなかった。ただダビデを選んで、わが民イスラエ  
ルの上に立たせた』と。七 イスラエルの神、主の名のた

めに宮を建てることは、わたしの父ダビデの心にあつた。二しかし主はわたしの父ダビデに言われた、『わたしの名のために宮を建てることはあなたの心にあつた。あなたの心にこの事のあつたのは結構である。一九けれどもあなたはその宮を建ててはならない。あなたの身から出るあなたの子がわたしの名のために宮を建てるのである』と。三そして主はその言われた言葉を行われた。すなわちわたしは父ダビデに代って立ち、主が言われたように、イスラエルの位に座し、イスラエルの神、主の名のために宮を建てた。三わたしはまたそこに主の契約を納めた箱のために一つの場所を設けた。その契約は主がわれわれの先祖をエジプトの地から導き出された時に、彼らと結ばれたものである。

三ソロモンはイスラエルの全会衆の前で、主の祭壇の前に立ち、手を天に伸べて、三三言った、『イスラエルの神、主よ、上の天にも、下の地にも、あなたのような神はありません。あなたは契約を守られ、心をつくしてあなたの前に歩むあなたのしもべらに、いつくしみを施し、二あなたたのしもべであるわたしの父ダビデに約束されたことを守られました。あなたが口をもって約束されたことを、手をもってなし遂げられたことは、今日見るとおりであります。三五それゆえ、イスラエルの神、主よ、あなたのしもべであるわたしの父ダビデに、あなたが約束して『おまえがわたしの前に歩んだように、おまえの子

孫が、その道を慎んで、わたしの前に歩むならば、おまえにはイスラエルの位に座する人が、わたしの前に欠けることはないであらう』と言われたことを、ダビデのために守ってください。二六イスラエルの神よ、どうぞ、あなたのしもべであるわたしの父ダビデに言われた言葉を確認してください。

三七しかし神は、はたして地上に住まわれるでしょうか。見よ、天も、いと高き天もあなたをいれることではできません。ましてわたしの建てたこの宮はなおさらです。二八しかしわが神、主よ、しもべの祈と願いを顧みて、しもべがきょう、あなたの前にささげる叫びと祈をお聞きください。二九あなたが『わたしの名をそこに置く』と言われた所、すなわち、この宮に向かって夜昼あなたの目をお開きください。しもべがこの所に向かって祈る祈をお聞きください。三〇しもべと、あなたの民イスラエルがこの所に向かって祈る時に、その願いをお聞きください。あなたのすみかである天で聞き、聞いておゆるしください。

三一もし人がその隣り人に対して罪を犯し、誓いをすることを求められる時、来てこの宮であなたの祭壇の前に誓うならば、三二あなたは天で聞いて行い、あなたのしもべらをさばき、悪人を罰して、そのおこないの報いをそのこうべに帰し、義人を義として、その義にしたがつて、その人に報いてください。

三 もしあなたの民イスラエルが、あなたに対して罪を犯したために敵の前に敗れた時、あなたに立ち返って、あなたの名をあがめ、この宮であなたに祈り願うならば、  
 四 あなたは天にあって聞き、あなたの民イスラエルの罪をゆるして、あなたが彼らの先祖に賜った地に彼らを帰らせてください。

五 もし彼らがあなたに罪を犯したために、天が閉ざされて雨がなく、あなたが彼らを苦しめられる時、彼らがこの所に向かつて祈り、あなたの名をあがめ、その罪を離れるならば、  
 六 あなたは天で聞き、あなたのしもべ、あなたの民イスラエルの罪をゆるし、彼らに歩むべき良い道を教えて、あなたが、あなたの民に嗣業として与えられた地に雨を降らせてください。

七 もし国にききんがあるか、もしくは疫病、立ち枯れ、腐り穂、いなご、青虫があるか、もしくは敵のために町の中に攻め囲まれることがあるか、どんな災害、どんな病気があっても、  
 八 もし、だれでも、あなたの民イスラエルがみな、おのおのその心の悩みを知って、この宮に向かい、手を伸べるならば、どんな祈、どんな願いでも、  
 九 あなたは、あなたのすみかである天で聞いてゆるし、かつ行い、おのおのの人に、その心を知っておられるゆえ、そのすべての道にしたがって報いてください。ただ、  
 十 あなただけ、すべての人の心を知っておられるからです。四 あなたが、われわれの先祖に賜った地に、彼ら

の生きながらえる日の間、常にあなたを恐れさせてください。

二 またあなたの民イスラエルの者でなく、あなたの名のために遠い国から来る異邦人が、  
 三 —それは彼らがあなたの偉いなる名と、強い手と、伸べた腕とについて聞き及ぶからです、—もしきて、この宮に向かつて祈るならば、  
 四 あなたは、あなたのすみかである天で聞き、すべて異邦人があなたに呼び求めることをかなえさせてください。そうすれば、地のすべての民は、あなたの民イスラエルのように、あなたの名を知り、あなたを恐れること、またわたしが建てたこの宮があなたの名によって呼ばれることを知るにいたるでしょう。

四 あなたが民が敵と戦うために、あなたがつかわされる道を通って出て行くとき、もし彼らがあなたの選ばれた町、わたしがあなたの名のために建てた宮の方に向かつて、主に祈るならば、  
 五 あなたは天で、彼らの祈と願いを聞いて彼らをお助けください。

六 彼らがあなたに対して罪を犯すことがあって、—人は罪を犯さない者はないのです、—あなたが彼らを怒り、彼らを敵にわたし、敵が彼らを捕虜として遠近にかかわらず、敵の地に引いて行く時、  
 七 もし彼らが捕われていった地で、みずから省みて悔い、自分を捕えていった者の地で、あなたに願い、「われわれは罪を犯しました、そむいて悪を行いました」と言い、  
 八 自分を捕え



ていった敵の地で、心をつくし、精神をつくしてあなたに立ち返り、あなたが彼らの先祖に与えられた地、あなたが選ばれた町、わたしがあなたの名のために建てた宮の方に向かつて、あなたに祈るならば、<sup>四九</sup>あなたのすみかである天で、彼らの祈と願いを聞いて、彼らを助け、<sup>五〇</sup>あなたの民が、あなたに対して犯した罪と、あなたに對して行ったすべてのあやまちをゆるし、彼らを捕えていった者の前で、彼らにあわれみを得させ、その人々が彼らをあわれむようにしてください。<sup>五一</sup>（彼らはあなたがエジプトから、鉄のかまどの中から導き出されたあなたの民、あなたの嗣業であるからです）。<sup>五二</sup>どうぞ、しもべの願いと、あなたの民イスラエルの願いに、あなたの目を開き、すべてあなたに呼び求める時、彼らの願いをお聞きください。<sup>五三</sup>あなたは彼らを地のすべての民のうちから区別して、あなたの嗣業とされたからです。主なる神よ、あなたがわれわれの先祖をエジプトから導き出された時、モーセによって言われたとおりです」。

<sup>五四</sup>ソロモンはこの祈と願いをことごとく主にささげ終ると、それまで天に向かつて手を伸べ、ひざまずいていた主の祭壇の前から立ちあがり、<sup>五五</sup>立って大声でイスラエルの全会衆を祝福して言った、<sup>五六</sup>「主はほむべきかな。主はすべて約束されたように、その民イスラエルに太平を賜わった。そのしもべモーセによって仰せられたその良き約束は皆一つもたがわなかった。<sup>五七</sup>われわれの神が

われわれの先祖と共におられたように、われわれと共におられるように。われわれを離れず、またわれわれを見捨てられないように。<sup>五八</sup>われわれの心を主に傾けて、主のすべての道に歩ませ、われわれの先祖に命じられた戒めと定めと、おきてとを守らせられるように。<sup>五九</sup>主の前にわたしが述べたこれらの願いの言葉が、日夜われわれの神、主に覚えられるように。そして主は日々、の事に、しもべを助け、主の民イスラエルを助けられるように。さうすれば、地のすべての民は主が神であることと、他に神のないことを知るに至るであらう。<sup>六〇</sup>それゆえ、あなたがたは、今日のようにわれわれの神、主に對して、心は全く真実であり、主の定めに歩み、主の戒めを守らなければならぬ」。

<sup>六一</sup>そして王および王と共にいるすべてのイスラエルびとは主の前に犠牲をささげた。<sup>六二</sup>ソロモンは酬恩祭として牛二万二千頭、羊十二万頭を主にささげた。こうして王とイスラエルの人々は皆主の宮を奉獻した。<sup>六三</sup>その日、王は主の宮の前にある庭の中を聖別し、その所で燔祭と素祭と酬恩祭の脂肪をささげた。これは主の前にある青銅の祭壇が素祭と酬恩祭の脂肪とを受けるに足りなかったからである。

<sup>六四</sup>その時ソロモンは七日の間われわれの神、主の前に祭を行った。ハマテの入口からエジプトの川に至るまでのすべてのイスラエルびとの大いなる会衆が彼と共にい

た。八日目にソロモンは民を帰らせた。民は王を祝福し、主がそのしもべダビデと、その民イスラエルに施されたもろもろの恵みを喜び、心に楽しんでその天幕に帰って行った。

### 第九章 ソロモンが主の宮と王の宮殿および

ソロモンが建てようとした望んだすべてのものを建て終った時、主はかつてギベオンでソロモンに現れたように再び現れて、彼に言われた、「あなたが、わたしの前に願った祈りと願いを聞いた。わたしはあなたが建てたこの宮を聖別して、わたしの名を永久にそこに置く。わたしの目と、わたしの心は常にそこにあるであろう。四 あなたがもし、あなたの父ダビデが歩んだように全き心をもって正しくわたしの前に歩み、すべてわたしが命じたようにおこなって、わたしの定めとおきてを守らるならば、五 わたしは、あなたの父ダビデに約束して『イスラエルの王位にのぼる人があなたに欠けることはないであろう』と言ったように、あなたのイスラエルに王たる位をながく確保するであろう。六 しかし、あなたがた、またはあなたがたの子孫がそむいてわたしに従わず、わたしがあなたがたの前に置いた戒めと定めとを守らず、他の神々に行つて、それに仕え、それを拝むならば、七 わたしはイスラエルを、わたしが与えた地のおもてから断つてあらう。またわたしの名のために聖別した宮をわたしの前から投げすてるであらう。そしてイスラエル

はもろもろの民のうちにことわざとなり、笑い草となるであらう。八 かつ、この宮は荒塚となり、そのかたわらを過ぎる者は皆驚き、うそぶいて『なにゆえ、主はこの地と、この宮とにこのようにされたのか』と言うであらう。九 その時人々は答えて『彼らは自分の先祖をエジプトの地から導き出した彼らの神、主を捨てて、他の神々につき従い、それを拝み、それに仕えたために、主はこのすべての災を彼らの上に下したのである』と言うであらう。

一〇 ソロモンは二十年を経て二つの家すなわち主の宮と王の宮殿とを建て終った時、二ツロの王ヒラムがソロモンの望みに任せて香柏と、いとすぎと、金とを供給したので、ソロモン王はガリラヤの地の町二十をヒラムに与えた。三 しかしヒラムがツロから来て、ソロモンが彼に与えた町々を見たとき、それらは彼の氣にいらなかった。四 彼は「兄弟よ、あなたがくださったこれらの町は、いったいなんですか」と言った。それで、そこは今日までカブルの地と呼ばれている。五 ヒラムはかつて金百二十タラントを王に贈った。

一五 ソロモン王が強制的に労働者を徴募したのはこうである。すなわち主の宮と自分の宮殿と、ミロとエルサレムの城壁と、ハゾルとメギドとゲゼルを建てるためであった。一六 (エジプトの王パロはかつて上つてきて、ゲゼルを取り、火でこれを焼き、その町に住んでいたカナ

ンびとを殺し、これをソロモンの妻である自分の娘に与えて婚姻の贈り物としたので、一七ソロモンはそのゲゼルを建て直した。また下ベテホロンと、一八バアラテとユダの国の荒野にあるタマル、一九およびソロモンが持つていた倉庫の町々、戦車の町々、騎兵の町々ならびにソロモンがエルサレム、レバノンおよびそのすべての領地において建てようと望んだものをことごとく建てたためであった。二〇すべてイスラエルの子孫でないアモリびと、ヘテびと、ペリジびと、ヒビびと、エブスびとの残った者、三その地にあつて彼らのあとに残った子孫すなわちイスラエルの人々の滅ぼしつくすことのできなかつた者を、ソロモンは強制的に奴隷として徴募をおこない、今日に至っている。三しかしイスラエルの人々をソロモンはひとりも奴隷としなかつた。彼らは軍人、また彼の役人、司令官、指揮官、戦車隊長、騎兵隊長であつたからである。

二三ソロモンの工事を監督する上役の官吏は五百五十人であつて、工事に働く民を治めた。

二四バロの娘はダビデの町から上つて、ソロモンが彼女のために建てた家に住んだ。その時ソロモンはミロを建てた。

二五ソロモンは主のために築いた祭壇の上に年に三度燔祭と酬恩祭をささげ、また主の前に香をたいた。こうしてソロモンは宮を完成した。

二六ソロモン王はエドムの地、紅海の岸のエラテに近いエジオン・ゲベルで数隻の船を造った。二七ヒラムは海の手を知っている船員であるそのしもべをソロモンのしもべと共にその船でつかわした。二八彼らはオフルへ行つて、そこから金四百二十タラントを取つて、ソロモン王の所にもつてきた。

第一〇章 シバの女王は主の名にかかわるソロモンの名声を聞いたので、難問をもつてソロモンを試みようとした。二彼女には多くの従者を連れ、香料と、たくさんの金と宝石とをらくだに負わせてエルサレムにきた。彼女はソロモンのもとにきて、その心にあることをことごとく彼に告げたが、三ソロモンはそのすべての問に答えた。王が知らないで彼女に説明のできないことは一つもなかつた。四シバの女王はソロモンのものもの知恵と、ソロモンが建てた宮殿、五その食卓の食物と、列座の家来たちと、その侍臣たちの伺候ぶり、彼の服装と、彼の給仕たち、および彼が主の宮でささげる燔祭を見て、全く氣を奪われてしまった。

六彼女は王に言った、「わたしは国でああなたの事と、あなたの知恵について聞いたことは真実でありました。あしかしわたしはきて、目に見るまでは、その言葉を信じませんでした。今見るとその半分もわたしは知らされていなかったのです。あなたの知恵と繁栄はわたしに聞いたうわさにまさっています。八あなたの奥方たちは



さいわいのです。常にあなたの前に立って、あなたの知恵を聞く家来たちはさいわいのです。九あなたの神、主はほむべきかな。主はあなたを喜び、あなたをイスラエルの位にのぼらせられました。主は永久にイスラエルを愛せられるゆえ、あなたを王として公道と正義とを行わせられるのです。一〇そして彼女は金百二十タラントおよび多くの香料と宝石とを王に贈った。シバの女王がソロモン王に贈ったような多くの香料は再びこなかった。

二オフルから金を載せてきたヒラムの船は、またオフルからたくさんびやくだんの木と宝石とを運んできたので、三王はびやくだんの木をもって主の宮と王の宮殿のために壁柱を造り、また歌う人々のために琴と立琴とを造った。このようなびやくだんの木は、かつてきたこともなく、また今日まで見たこともなかった。

三ソロモン王はその豊かなのにしたがってシバの女王に贈り物をしたほかに、彼女の望みにまかせて、すべてその求める物を贈った。そして彼女はその家来たちと共に自分の国へ帰っていった。

四さて一年の間にソロモンのところに、はいつてきた金の目方は六百六十六タラントであった。一五そのほかに貿易商および商人の取引、ならびにアラビヤの諸王と国の代官たちからも、はいつてきた。一六ソロモン王は延金の大盾二百を造った。その大盾にはおのおの六百シケルの金を用いた。一七また延金の小盾三百を造った。その小

盾にはおのおの三ミナの金を用いた。王はこれらをレバノンの森の家に置いた。一八王はまた大きな象牙の玉座を造り、純金をもってこれをおおった。一九その玉座に六つの段があり、玉座の後に子牛の頭があり、座席の両側にひじ掛があつて、ひじ掛のわきに二つのししが立っていた。二〇また六つの段のおのおのの両側に十二のししが立っていた。このような物はどこの国でも造られたことがなかった。二三ソロモン王が飲むときに用いた器は皆金であつた。またレバノンの森の家の器も皆純金であつて、銀のものはなかった。銀はソロモンの世には顧みられなかった。二四これは王が海にタルシシの船隊を所有して、ヒラムの船隊と一緒に航海させ、タルシシの船隊に三年に一度、金、銀、象牙、さる、くじやくを載せてこさせたからである。

三このようにソロモン王は富も知恵も、地のすべての王にまさっていたので、二四全地の人々は神がソロモンの心に授けられた知恵を聞こうとしてソロモンに謁見を求めた。二五人々はおのおの贈り物を携えてきた。すなわち銀の器、金の器、衣服、没薬、香料、馬、騾馬など年々定まっていた。

二六ソロモンは戦車と騎兵とを集めたが、戦車一千四百両、騎兵一万二千あつた。ソロモンはこれを戦車の町とエルサレムの王のもとに置いた。二七王はエルサレムで、銀を石のように用い、香柏を平地にあるいちじく桑のよ

うに多く用いた。二八ソロモンが馬を輸入したのはエジプトとクエからであった。すなわち王の貿易商はクエから代価を払って受け取ってきた。二九エジプトから輸入される戦車一両は銀六百シケル、馬は百五十シケルであった。このようにして、これらのものが王の貿易商によって、ヘテびとのすべての王たちおよびスリヤの王たちに輸出された。

第一一章　一ソロモン王は多くの外国の女を愛した。すなわちパロの娘、モアブびと、アンモンびと、エドムびと、シドンびと、ヘテびとの女を愛した。二主はかつてこれらの国民について、イスラエルの人々に言われた、「あなたがたは彼らと交わってはならない。彼らもまたあなたがたと交わってはならない。彼らは必ずあなたがたの心を転じて彼らの神々に従わせるからである」。しかしソロモンは彼らを愛して離れなかった。三彼には王妃としての妻七百人、そばめ三百人があった。その妻たちが彼の心を転じたのである。四ソロモンが年老いた時、その妻たちが彼の心を転じて他の神々に従わせたので、彼の心は父ダビデの心のように、その神、主に真実でなかった。五これはソロモンがシドンびとの女神アシタロテに従い、アンモンびとの神である憎むべき者ミルコムに従ったからである。六このようにソロモンは主の目の前に悪を行い、父ダビデのように全くは主に従わなかった。七そしてソロモンはモアブの神である憎むべ

き者ケモシのために、またアンモンの人々の神である憎むべき者モレクのためにエルサレムの東の山に高き所を築いた。八彼はまた外国のすべての妻たちのためにもそうしたので、彼女たちはその神々に香をたき、犠牲をさげた。

九このようにソロモンの心が転じて、イスラエルの神、主を離れたため、主は彼を怒られた。すなわち主がかつて二度彼に現れ、一〇この事について彼に、他の神々に従ってはならないと命じられたのに、彼は主の命じられたことを守らなかったからである。二それゆえ、主はソロモンに言われた、「これがあなたの本心であり、わたしは命じた契約と定めとを守らなかったで、わたしは必ずあなたから国を裂き離して、それをあなたの家来に与える。三しかしあなたがたの父ダビデのために、あなたの世にはそれをしないが、あなたがたの子の手からそれを裂き離す。四ただし、わたしは国をことごとくは裂き離さず、わたしのしもべダビデのために、またわたしを選んだエルサレムのために一つの部族をあなたの子に与えるであらう」。

五こうして主はエドムびととハダデを起して、ソロモンの敵とされた。彼はエドムの王家の者であった。一五さきにダビデはエドムにいたが、軍の長ヨアブが上つていて、戦死した者を葬り、エドムの男子をことごとく打ち殺した時、一六ヨアブはイスラエルの人々と共に六か月

そこにとどまって、エドムの男子をことごとく断つた。  
 一七 ハダデはその父のしもべである数人のエドムびとと共に逃げてエジプトへ行こうとした。その時ハダデはまだ少年であつた。一八 彼らがミデアンを立つてパランへ行き、パランから人々を伴つてエジプトへ行き、エジプトの王パロのところへ行くと、パロは彼に家を与え、食糧を定め、かつ土地を与えた。一九 ハダデは大いにパロの心になつたので、パロは自分の妻の妹すなわち王妃タペネスの妹を妻として彼に与えた。二〇 タペネスの妹は彼に男の子ゲヌバテを産んだので、タペネスはその子をパロの家のうちで乳離れさせた。ゲヌバテはパロの家で、パロの子どもたちと一緒にいた。二一 さてハダデはエジプトで、ダビデがその先祖と共に眠つたことと、軍の長ヨアブが死んだことを聞いたので、ハダデはパロに言った、「わたしを去らせて、国へ帰らせてください」。二二 パロは彼に言った、「わたしと共にいて、なんの不足があつて国へ帰ることを求めるのですか」。彼は言った、「ただ、わたしを帰らせてください」。

二三 神はまたエリアダの子レゾンを起こしてソロモンの敵とされた。彼はその主人ゾバの王ハダデゼルのもとを逃げ去つた者であつた。二四 ダビデがゾバの人々を殺した後、彼は人々を自分のまわりに集めて略奪隊の首領となつた。彼らはダマスコへ行って、そこに住み、ダマスコで彼を王とした。二五 彼はソロモンの一生の間、イスラエル

の敵となつて、ハダデがしたように害をなし、イスラエルを憎んでスリヤを治めた。

二六 ゼレダのエフライムびとネバテの子ヤラベアムはソロモンの家来であつたが、その母の名はゼルヤといつて寡婦であつた。彼もまたその手をあげて王に敵した。二七 彼が手をあげて、王に敵した事情はこうである。ソロモンはミロを築き、父ダビデの町の破れ口をふさいでいた。二八 ヤラベアムは非常に手腕のある人であつたが、ソロモンはこの若者がよく働くのを見て、彼にヨセフの家のすべての強制労働の監督をさせた。二九 そのころ、ヤラベアムがエルサレムを出たとき、シロびとである預言者アヒヤが道で彼に会つた。アヒヤは新しい着物を着ていた。そして彼らふたりだけが野にいた。三〇 アヒヤは着ている着物をつかんで、それを十二切れに裂き、ミヤラベアムに言った、「あなたは十切れを取りなさい。イスラエルの神、主はこう言われる、『見よ、わたしは国をソロモンの手から裂き離して、あなたに十部族を与えよう。三二(ただし彼はわたしのしもべダビデのために、またわたしがいすラエルのすべての部族のうちから選んだ町エルサレムのために、一つの部族をもつであらう)』。三三 それは彼がわたしを捨てて、シドンびとの女神アシタロテと、モアブの神ケモシと、アンモンの人々の神ミルコムを拝み、父ダビデのように、わたしの道に歩んで、わたしの目にかなう事を行い、わたしの定めと、おきてを守



ることをしなかったからである。三しかし、わたしは国をことごとくは彼の手から取らない。わたしが選んだ、わたしのしもベダビデが、わたしの命令と定めとを守ったので、わたしは彼のためにソロモンを一生の間、君としよう。三五そして、わたしはその子の手から国を取って、その十部族をあなたに与える。三六その子には一つの部族を与えて、わたしの名を置くために選んだ町エルサレムで、わたしのしもベダビデに、わたしの前に常に一つのとしびを保たせるであらう。三七わたしがあなたを選ば、あなたはすべて心の望むところを治めて、イスラエルの上に王となるであらう。三八もし、あなたが、わたしの命じるすべての事を聞いて、わたしの道に歩み、わたしの目にかなう事を行い、わたしのしもベダビデがしたように、わたしの定めと戒めとを守るならば、わたしはあなたと共にいて、わたしがダビデのために建てたように、あなたのために堅固な家を建てて、イスラエルをあなたに与えよう。三九わたしはこのためにダビデの子孫を苦しめる。しかし永久にはない。四〇ソロモンはヤラベアムを殺そうとしたが、ヤラベアムは立つてエジプトにのがれ、エジプト王シシャクのところへ行つて、ソロモンの死ぬまでエジプトにいた。

四一ソロモンのそのほかの事績と、彼がしたすべての事およびその知恵は、ソロモンの事績の書にしるされてい

るではないか。四二ソロモンがエルサレムでイスラエルの全地を治めた日は四十年であつた。四三ソロモンはその先祖と共に眠つて、父ダビデの町に葬られ、その子レハベアムが代つて王となつた。

第一章 二章 一レハベアムはシケムへ行つた。すべてのイスラエルびとが彼を王にしようとシケムへ行つたからである。二ネバテの子ヤラベアムはソロモンを避けてエジプトにのがれ、なおそこにいたが、これを聞いてエジプトから帰つたので、三人々は人をつかわして彼を招いた。そしてヤラベアムとイスラエルの会衆は皆レハベアムの所にきて言つた、四父上はわれわれのくびきを重くされましたが、今父上のきびしい使役と、父上がわれわれに負わせられた重いくびきを軽くしてください。五レハベアムは彼らに言つた、「去つて、三日過ぎてから、またわたしのところにきなさい」。それで民は立ち去つた。

六レハベアム王は父ソロモンの存命中ソロモンに仕えた老人たちに相談して言つた、「この民にどう返答すればよいと思ひますか」。七彼らはレハベアムに言つた、「もしあなたが、きょう、この民のしもべとなつて彼らに仕え、彼らに答えるとき、ねんごろに語られるならば、彼らは永久にあなたのしもべとなるでしよう。八しかし彼は老人たちが与えた勧めを捨てて、自分と一緒に大きくなつて自分に仕えている若者たちに相談して、九彼らに言つた、「この民がわたしにむかつて『あなたの父がわれわれ

に負わせたくびきを軽くしてください』というのに、われわれはなんと返答すればよいと思ひますか。二。彼と一緒に大きくなった若者たちは彼に言った、「あなたにむかつて『父上はわれわれのくびきを重くされましたが、あなたは、それをわれわれのために軽くしてください』と言うこの民に、こう言いなさい、『わたしの小指は父の腰よりも太い。二父はあなたがたに重いくびきを負わせたが、わたしはさらに、あなたがたのくびきを重くしよう。父はむちでああなたがたを懲らしたが、わたしはさそりをもってあなたがたを懲らそう』と」。

三さてヤラベアムと民は皆、王が「三日目に再びわたしのところに来るように」と言ったとおりに、三日目にレハベアムのところに来た。三王は荒々しく民に答え、老人たちが与えた勧めを捨てて、一四若者たちの勧めに従ひ、彼らに告げて言った、「父はあなたがたのくびきを重くしたが、わたしはあなたがたのくびきを、さらに重くしよう。父はむちでああなたがたを懲らしたが、わたしはさそりをもってあなたがたを懲らそう」。一五このように王は民の言うことを聞きいれなかった。これはかつて主がシロびとアヒヤによつて、ネバテの子ヤラベアムに言われた言葉を成就するために、主が仕向けられた事であつた。

一六イスラエルの人々は皆、王が自分たちの言うことを聞きいれないのを見たので、民は王に答えて言った、

「われわれはダビデのうちに何の分があるうか、アエツサイの子のうちに嗣業がない。イスラエルよ、あなたがたの天幕へ帰れ。ダビデよ、今自分の家の事を見よ」。

そしてイスラエルはその天幕へ去つていった。一七しかしレハベアムはユダの町々に住んでいるイスラエルの人々を治めた。一八レハベアム王は徴募の監督であつたアドラムをつかわしたが、イスラエルが皆、彼を石で撃ち殺したので、レハベアム王は急いで車に乗り、エルサレムへ逃げた。一九こうしてイスラエルはダビデの家にそむいて今日に至つた。二〇イスラエルは皆ヤラベアムの帰つてきたのを聞き、人をつかわして彼を集會に招き、イスラエルの全家の上に王とした。ユダの部族のほかはダビデの家に従う者がなかつた。

二三ソロモンの子レハベアムはエルサレムに来て、ユダの全家とベニヤミンの部族の者、すなわちえり抜き軍人十八万を集め、国を取りもどすために、イスラエルの家と戦おうとしたが、二三神の言葉が神の人シマヤに臨んだ、二三「ソロモンの子であるユダの王レハベアム、およびユダとベニヤミンの全家、ならびにそのほかの民に言いなさい、一四『主はこう仰せられる。あなたがたは上つていつてはならない。あなたがたの兄弟であるイスラエルの人々と戦つてはならない。おのおの家に帰りなさい。この事はわたしから出たのである』。それで彼らは

主の言葉をきき、主の言葉に従って帰っていった。  
 二五 ヤラバームはエフライムの山地にシケムを建て、そこに住んだ。彼はまたそこから出てベヌエルを建てた。二六 しかしヤラバームはその心のうちに言った、「国は今ダビデの家にもどるであろう。二七 もしこの民がエルサレムにある主の宮に犠牲をささげるために上るならば、この民の心はユダの王である彼らの主君レハバームに帰り、わたしを殺して、ユダの王レハバームに帰るであろう。二八 そこで王は相談して、二つの金の子牛を造り、民に言った、「あなたがたはもはやエルサレムに上るには、およばない。イスラエルよ、あなたがたをエジプトの国から導き上ったあなたがたの神を見よ」。二九 そして彼は一つをベテルにすえ、一つをダンに置いた。三〇 この事は罪となった。民がベテルへ行つて一つを礼拝し、ダンへ行つて一つを礼拝したからである。三一 彼はまた高き所に家を造り、レビの子孫でない一般の民を祭司に任命した。三二 またヤラバームはユダで行う祭と同じ祭を八月の十五日に定め、そして祭壇に上った。彼はベテルでそのように行い、彼が造った子牛に犠牲をささげた。また自分の造った高き所の祭司をベテルに立てた。三三 こうして彼はベテルに造った祭壇に八月の十五日に上った。これは彼が自分で勝手に考えた月であった。そして彼はイスラエルの人々のために祭を定め、祭壇に上って香をたいた。

第一三章 一 見よ、神の人が主の命によってユダ

からベテルにきた。その時ヤラバームは祭壇の上に立つて香をたいていた。二 神の人は祭壇にむかい主の命によつて呼ばわつて言った、「祭壇よ、祭壇よ、主はこう仰せられる、『見よ、ダビデの家にひとりの子が生れる。その名をヨシヤという。彼はおまえの上で香をたく高き所の祭司らをおまえの上にささげる。また人の骨がおまえの上で焼かれる』。三 その日、彼はまた一つのしるしを示して言った、「主の言われたしるしはこれである、『見よ、祭壇は裂け、その上にある灰はこぼれ出るであろう』。四 ヤラバーム王は、神の人がベテルにある祭壇にむかつて呼ばわる言葉を聞いた時、祭壇から手を伸ばして、「彼を捕えよ」と言ったが、彼にむかつて伸ばした手が枯れて、ひっ込めることができなかった。五 そして神の人が主の言葉をもって示したしるしのように祭壇は裂け、灰は祭壇からこぼれ出た。六 王は神の人に言った、「あなたの神、主に願ひ、わたしのために祈つて、わたしの手をもとに返らせてください」。神の人が主に願つたので、王の手はもとに返つて、前のようになつた。七 そこで王は神の人に言った、「わたしと一緒に家にきて、身を休めなさい。あなたに謝礼をさしあげましょう」。八 神の人は王に言った、「たとい、あなたの家の半ばをくださったとしても、わたしはあなたと一緒にいません。またこの所では、パンも食べず水も飲みません。九 主の言葉



によつてわたしは、『パンを食べてはならない、水を飲んではならない。また来た道から帰つてはならない』と命じられてゐるからです。二〇こうして彼はほかの道を行き、ベテルに來た道からは帰らなかつた。

二一さてベテルにひとり年の老いた預言者が住んでゐたが、そのむすこたちがきて、その日神の人がベテルでした事どもを彼に話した。また神の人が王に言つた言葉をもその父に話した。二三父が彼らに「その人はどの道を行つたか」と聞いたので、むすこたちはユダからきた神の人の行つた道を父に示した。二四父はむすこたちに言つた、「わたしのためにろばにくらを置きなさい」。彼らがろばにくらを置いたので、彼はそれに乗り、二五神の人のあとを追つて行き、かしの木の下にすわつてゐるのを見て、その人に言つた、「あなたはユダからこられた神の人ですか」。その人は言つた、「そうです」。二六そこで彼はその人に言つた、「わたしと一緒に家にきてパンを食べてください」。二七その人は言つた、「わたしはあなたと一緒に引き返すことはできません。あなたと一緒に行くことはできません。またわたしはこの所であなたと一緒にパンも食はず水も飲みません。二八主の言葉によつてわたしは、『その所でパンを食べてはならない、水を飲んではない。また来た道から帰つてはならない』と言われているからです。二九彼はその人に言つた、「わたしもあなたと同じ預言者ですが、天の使が主の命によつてわたし

に告げて、『その人を一緒に家につれ帰り、パンを食べさせ、水を飲ませよ』と言いました。これは彼がその人を欺いたのである。三〇そこでその人は彼と一緒に引き返し、その家でパンを食べ、水を飲んだ。

三一彼らが食卓についていたとき、主の言葉が、その人をつれて歸つた預言者に臨んだので、三二彼はユダからきた神の人にむかい呼ばわつて言つた、「主はこう仰せられます、『あなたが主の言葉にそむき、あなたの神、主がお命じになつた命令を守らず、三三引き返して、主があなたに、パンを食べてはならない、水を飲んではない、と言われた場所のでパンを食べ、水を飲んだゆゑ、あなたの死体はあなたの先祖の墓に行かないであらう』。三三そしてその人がパンを食べ、水を飲んだ後、彼はその人のため、すなわちつれ歸つた預言者のためにろばにくらを置いた。三四こうしてその人は立ち去つたが、道でししが彼に會つて彼を殺した。そしてその死体は道に捨てられ、ろばはそのかたわらに立ち、ししもまた死体のかたわらに立つてゐた。三五人々はそこをとおつて、道に捨てられてゐる死体と、死体のかたわらに立つてゐるししを見て、かの老預言者の住んでゐる町にきてそれを話した。三六その人を道からつれて歸つた預言者はそれを聞いて言つた、「それは主の言葉にそむいた神の人だ。主が彼に言われた言葉のように、主は彼をししにわたされ、ししが彼を裂き殺したのだ」。三七そしてむすこたちに言つた、

「わたしのためにろばにくらを置きなさい」。彼らがくらを置いたので、二八彼は行って、死体が道に捨てられ、ろばとししが死体のかたわらに立っているのを見た。ししはその死体を食はず、ろばも裂いていなかった。二九そこで預言者は神の人の死体を取りあげ、それをろばに載せて町に持ち帰り、悲しんでそれを葬った。三〇すなわちその死体を自分の墓に納め、皆これがために「ああ、わが兄弟よ」と言って悲しんだ。三十一彼はそれを葬って後、むすこたちと言った、「わたしが死んだ時は、神の人を葬った墓に葬り、わたしの骨を彼の骨のかたわらに納めなさい。三十二彼が主の命によって、ベテルにある祭壇にむかい、またサマリヤの町々にある高き所のすべての家にむかつて呼ばわった言葉は必ず成就するのです」。

三十三この事の後も、ヤラベアムはその悪い道を離れて立ち返ることをせず、また一般の民を、高き所の祭司に任命した。すなわち、だれでも好む者は、それを立てて高き所の祭司とした。三十四この事はヤラベアムの家の罪となつて、ついにこれを地のおもてから断ち滅ぼすようになった。

第一四章 「そのころヤラベアムの子アビヤが病氣になったので、ニヤラベアムは妻に言った、「立って姿を変え、ヤラベアムの妻であることの知られないようにしてシロへ行きなさい。わたしがこの民の王となることを、わたしに告げた預言者アヒヤがそこにいます。三バ

ン十個と菓子数個および、みつ一びんを携えて彼のところへ行きなさい。彼はこの子がどうなるかをあなたに告げるでしょう」。

四ヤラベアムの妻はそのようにして、立ってシロへ行き、アヒヤの家に着いたが、アヒヤは年老いたため、目がかすんで見ることができなかった。五しかし主はアヒヤに言われた、「ヤラベアムの妻が子供の事をあなたに尋ねるために来る。子供は病気だ。あなたは彼女にこうこ

う言わなければならぬ」。彼女が来るとき、他人を装っていた。六しかし彼女が戸口にはいつてきたとき、アヒヤはその足音を聞いて言った、「ヤラベアムの妻よ、はいりなさい。なぜ、他人

を装うのですか。わたしはあなたにきびしい事を告げるよう、命じられています。七行ってヤラベアムに言いなさい、『イスラエルの神、主はこう仰せられる、「わたしはあなたを民のうちからあげ、わたしの民イスラエルの上に立てて君とし、八国をダビデの家から裂き離して、それをあなたに与えたのに、あなたはわたしのしもべダビデが、わたしの命令を守って一心にわたしに従い、ただわたしの目になつた事のみを行つたようにはなく、九あなたよりも先にいたすべての者にまさつて悪をなし、行って自分のために他の神々と鑄た像を造り、わたしを怒らせ、わたしをうしろに捨て去つた。一〇それゆえ、見よ、わたしはヤラベアムの家に災を下し、ヤラベアムに

属する男は、イスラエルにいて、つながれた者も、自由な者もことごとく断ち、人があくたを残りなく焼きつくすように、ヤラベアムの家を全く断ち滅ぼすであらう。二ヤラベアムに属する者は、町で死ぬ者を犬が食べ、野で死ぬ者を空の鳥が食べるであらう。主がこれを言われるのである。三あなたは立つて、家へ帰りなさい。あなたの足が町にはいる時に、子どもは死にます。四そしてイスラエルは皆、彼のために悲しんで彼を葬るであらう。ヤラベアムに属する者は、ただ彼だけ墓に葬られるであらう。ヤラベアムの家のうちで、彼はイスラエルの神、主にむかって良い思いをいだいていたからです。五主はイスラエルの上にひとりの王を起されます。彼はその日ヤラベアムの家を断つであらう。六その後主はイスラエルを撃つて、水に揺らぐ葦のようにし、イスラエルを、その先祖に賜わったこの良い地から抜き去つて、ユフラテ川の向こうに散らされるであらう。彼らがアシラ像を造つて主を怒らせたからです。七主はヤラベアムの罪のゆえに、すなわち彼がみずから犯し、またイスラエルに犯させたその罪のゆえにイスラエルを捨てられるであらう。八ヤラベアムの妻は立つて去り、テルザへ行つて、家の敷居をまたいだ時、子どもは死んだ。九イスラエルは皆彼を葬り、彼のために悲しんだ。主がそのしもべ預言者アヒヤによつて言われた言葉のとおりである。一〇ヤラ

ベアムその他の事績、彼がどのようにに戦い、どのようにに世を治めたかは、イスラエルの王の歴代志の書に記されている。二〇ヤラベアムが世を治めた日は二十二年であつた。彼はその先祖と共に眠つて、その子ナダブが代つて王となつた。

三ソロモンの子レハベアムはユダで世を治めた。レハベアムは王となつたとき四十一歳であつたが、主がその名を置くために、イスラエルのすべての部族のうちから選ばれた町エルサレムで、十七年世を治めた。その母の名はナアマといつてアンモンびとであつた。四ユダの人はその先祖の行つたすべての事にまさつて、主の目の前に悪を行い、その犯した罪によつて主の怒りを引き起した。五彼らもすべての高い丘の上と、すべての青木の下に、高き所と石の柱とアシラ像とを建てたからである。六その国にはまた神殿男娼たちがいた。彼らは主がイスラエルの人々の前から追い払われた国民のすべての憎むべき事をならい行つた。

七レハベアム王の第五年にエジプトの王シシャクがエルサレムに攻め上つてきて、八主の宮の宝物と、王の宮殿の宝物を奪い去つた。彼はそれをことごとく奪い去り、またソロモンの造つた金の盾をみな奪い去つた。九レハベアムはその代りに青銅の盾を造つて、王の宮殿の門を守る侍衛長の手にわたした。一〇王が主の宮にはいるごとに、侍衛はそれを携え、また、それを侍衛のへやへ持ち



帰った。

二九レハベアムその他の事績と、彼がしたすべての事は、ユダの王の歴代志の書に記されてゐるではないか。三〇レハベアムとヤラベアムの間には絶えず戦争があつた。三レハベアムはその先祖と共に眠って先祖と共にダビデの町に葬られた。その母の名はナアマといつてアンモンびとであつた。その子アビヤムが代つて王となつた。

第一章 一ネバテの子ヤラベアム王の第十八年にアビヤムがユダの王となり、ニエルサレムで三年世を治めた。その母の名はマアカといつて、アブサロムの娘であつた。二彼はその父が先に行つたもろもろの罪をおこない、その心は父ダビデの心のようにその神、主に對して全く眞実ではなかつた。三それにもかかわらず、その神、主はダビデのために、エルサレムにおいて彼に一つのともしびを与え、その子を彼のあとに立てて、エルサレムを固められた。四それはダビデがヘテびとウリヤの事のほか、一生の間、主の目になう事を行い、主が命じられたすべての事に、そむかなかつたからである。五レハベアムとヤラベアムの間には一生の間、戦争があつた。六アビヤムのその他の行為と、彼がしたすべての事は、ユダの王の歴代志の書に記されてゐるではないか。アビヤムとヤラベアムの間にも戦争があつた。ハアビヤムはその先祖と共に眠って、ダビデの町に葬ら

れ、その子アサが代つて王となつた。

九イスラエルの王ヤラベアムの第二十年にアサはユダの王となり、一〇エルサレムで四十一年世を治めた。その母の名はマアカといつてアブサロムの娘であつた。二アサはその父ダビデがしたように主の目になう事をし、三神殿男娼を国から追い出し、先祖たちの造つたもろもろの偶像を除いた。四彼はまたその母マアカが、アシラのために憎むべき像を造らせたので、彼女を太后の位から退けた。そしてアサはその憎むべき像を切り倒してキデロンの谷で焼き捨てた。五ただし高き所は除かなかつた。けれどもアサの心は一生の間、主に対して全く眞実であつた。六彼は父の献納した物と自分の献納した物、金銀および器物を主の宮に携え入れた。

一六アサとイスラエルの王バアシアの間には一生の間、戦争があつた。一七イスラエルの王バアシアはユダに攻め上り、ユダの王アサの所に、だれをも出入りさせないためにラマを築いた。一八そこでアサは主の宮の宝蔵と、王の宮殿の宝蔵に残つてゐる金銀をことごとく取つて、これを家来たちの手にわたし、そしてアサ王は彼らをダマスコに住んでゐるスリヤの王、ヘジヨンの子タブリモンの子であるベネハダデにつかわして言させた、一九わたしの父とあなたの父との間に結ばれてゐたように、わたしとあなたの間に同盟を結びましょう。わたしはあなたに金銀の贈り物をさしあげます。行つて、あなたとイス

ラエルの王バアシャとの同盟を破棄し、彼をわたしの所から撤退させてください。二〇ベネハダデはアサ王の言うことを聞き、自分の軍勢の長たちをつかわしてイスラエルの町々を攻め、イヨンとダンとアベル・ベテ・マアカおよびキンネレテの全地と、ナフタリの全地を撃つた。三バアシャはこれを聞き、ラマを築くことをやめて、テルザにとどまった。三そこでアサ王はユダ全国に布告を発した。ひとりも免れる者はなかった。すなわちバアシャがラマを築くために用いた石と材木を運びこさせ、アサ王はそれを用いて、ベニヤミンのゲバとミツバを築いた。三アサのその他の事績とそのすべての勲功と、彼がしたすべての事および彼が建てた町々は、ユダの王の歴代志の書に記されているではないか。彼は老年になつて足を病んだ。四アサはその先祖と共に眠つて、父ダビデの町に先祖と共に葬られ、その子ヨシヤバテが代つて王となつた。

二五ユダの王アサの第二年にヤラベアムの子ナダブがイスラエルの王となつて、二年イスラエルを治めた。二六彼は主の目の前に悪を行い、その父の道に歩み、父がイスラエルに犯させた罪をおこなつた。

二七イツサカルの家のアヒヤの子バアシャは彼に対してむほんを企て、ペリシテびとに属するギベトンで彼を撃つた。これはナダブとイスラエルが皆ギベトンを囲んでいたからである。二八こうしてユダの王アサの第三年に

バアシャは彼を殺し、彼に代つて王となつた。二九彼は王となるとすぐヤラベアムの全家を撃ち、息のある者をひとりもヤラベアムの家に残さず、ことごとく滅ぼした。主がそのしもべシロびとアヒヤによつて言われた言葉のとおりであつて、三〇これはヤラベアムがみずから犯し、またイスラエルに犯させた罪のため、また彼がイスラエルの神、主を怒らせたその怒りによるのであつた。

三ナダブのその他の事績と、彼がしたすべての事は、イスラエルの王の歴代志の書に記されているではないか。三アサとイスラエルの王バアシャの間には一生の間戦争があつた。

三三ユダの王アサの第三年にアヒヤの子バアシャはテルザでイスラエルの全地の王となつて、二十四年世を治めた。三四彼は主の目の前に悪を行い、ヤラベアムの道に歩み、ヤラベアムがイスラエルに犯させた罪をおこなつた。

第一六章 一そこで主の言葉がハナニの子エヒウに臨み、バアシャを責めて言つた、三「わたしはあなたをちりの中からあげて、わたしの民イスラエルの上に君としたが、あなたはヤラベアムの道に歩み、わたしの民イスラエルに罪を犯させ、その罪をもつてわたしを怒らせた。三それでわたしは、バアシャとその家を全く滅ぼし去り、あなたの家をネバテの子ヤラベアムの家のようにする。四バアシャに属する者で、町で死ぬ者は犬が食べ、彼に属する者で、野で死ぬ者は空の鳥が食べるであ

ろう」。

五 バアシャのその他の事績と、彼がした事と、その勲功とは、イスラエルの王の歴代志の書にしるされているではないか。六 バアシャはその先祖と共に眠って、テルザに葬られ、その子エラが代って王となった。七 主の言葉はまたハナニの子預言者エヒウによって臨み、バアシャとその家を責めた。これは彼が主の目の前に、もろもろの悪を行い、その手のわざをもって主を怒らせ、ヤラベアムの家にならったためであり、また彼がヤラベアムの家を滅ぼしたためであつた。

八 ユダの王アサの第二十六年にバアシャの子エラはテルザでイスラエルの王となり、二年世を治めた。九 彼がテルザにいて、テルザの宮殿のつかさアルザの家で酒を飲んで酔つた時、その家来で戦車隊の半ばを指揮していたジムリが、彼にそむいた。一〇そしてユダの王アサの第二十七年にジムリは、はいつてきて彼を撃ち殺し、彼に代って王となった。

二 ジムリは王となって、位についた時、バアシャの全家を殺し、その親族または友だちの男子は、ひとりも残さなかつた。三 こうしてジムリはバアシャの全家を滅ぼした。主が預言者エヒウによってバアシャを責めて言われた言葉のとおりである。四 これはバアシャのもろもろの罪と、その子エラの罪のためであつて、彼らが罪を犯し、またイスラエルに罪を犯させ、彼らの偶像をもって

イスラエルの神、主を怒らせたからである。一四 エラのその他の事績と、彼がしたすべての事は、イスラエルの王の歴代志の書にしるされているではないか。

一五 ユダの王アサの第二十七年にジムリはテルザで七日の間、世を治めた。民はペリシテびとに属するギベトンにむかつて陣取っていたが、一六 その陣取っていた民が「ジムリはむほんを起して王を殺した」と人のいうのを聞いたので、イスラエルは皆その日陣営で、軍の長オムリをイスラエルの王とした。一七 そこでオムリはイスラエルの人々と共にギベトンから上つてテルザを囲んだ。一八 ジムリはその町の陥るのを見て、王の宮殿の天守にはいり、王の宮殿に火をかけてその中で死んだ。一九 これは彼が犯した罪のためであつて、彼が主の目の前に悪を行い、ヤラベアムの道に歩み、ヤラベアムがイスラエルに犯させたその罪を行つたからである。二〇 ジムリのその他の事績と、彼が企てた陰謀は、イスラエルの王の歴代志の書にしるされているではないか。

二一 その時イスラエルの民は二つに分れ、民の半ばはギナテの子テブニに従つて、これを王としようとし、半ばはオムリに従つた。二二 しかしオムリに従つた民はギナテの子テブニに従つた民に勝つて、テブニは死に、オムリが王となった。二三 ユダの王アサの第三十一年にオムリはイスラエルの王となつて十二年世を治めた。彼はテルザで六年王であつた。二四 彼は銀二タラントでセメルからサ



マリヤの山を買い、その上に町を建て、その建てた町の名をその山の持ち主であつたセメルの名に従つてサマリヤと呼んだ。

二五 オムリは主の目の前に悪を行い、彼よりも先にいたすべての者にまさつて悪い事をした。二六 彼はネバテの子ヤラベアムのすべての道に歩み、ヤラベアムがイスラエルに罪を犯させ、彼らの偶像をもつてイスラエルの神、主を怒らせたその罪を行った。二七 オムリが行つたその他の事績と、彼があらわした勲功とは、イスラエルの王の歴代志の書にしるされてゐるではないか。二八 オムリはその先祖と共に眠つて、サマリヤに葬られ、その子アハブが代つて王となつた。

二九 ユダの王アサの第三十八年にオムリの子アハブがイスラエルの王となつた。オムリの子アハブはサマリヤで二十二年イスラエルを治めた。三〇 オムリの子アハブは彼よりも先にいたすべての者にまさつて、主の目の前に悪を行った。三一 彼はネバテの子ヤラベアムの罪を行うことを、軽い事とし、シドンびとの王エテバルの娘イゼベを、妻にめとり、行つてバアルに仕え、これを拝んだ。三二 彼はサマリヤに建てたバアルの宮に、バアルのために祭壇を築いた。三三 アハブはまたアシラ像を造つた。アハブは彼よりも先にいたイスラエルのすべての王にまさつてイスラエルの神、主を怒らせることを行つた。三四 彼の代にベテルびとヒエルはエリコを建てた。彼はその基を

すえる時に長子アピラムを失ひ、その門を立てる時に末の子セグブを失つた。主がヌンの子ヨシユアによつて言われた言葉のとおりである。

# 第一七章

一 エリヤはアハブに言つた、「わたしの仕えてゐるイスラエルの神、主は生きておられます。わたしの言葉のないうちは、数年雨も露もないでしょう」。二 主の言葉がエリヤに臨んだ、三「ここを去つて東におもむき、ヨルダンの東にあるケリテ川のほとりに身を隠しなさい。四 そしてその川の水を飲みなさい。わたしはからすに命じて、そこであなたを養わせよう」。五 エリヤは行つて、主の言葉のとおりにした。すなわち行つて、ヨルダンの東にあるケリテ川のほとりに住んだ。六 すると、からすが朝ごとに彼の所にパンと肉を運び、また夕ごとにパンと肉を運んできた。そして彼はその川の水を飲んだ。七 しかし、国に雨がなかつたので、しばらくしてその川は干涸した。八 その時、主の言葉が彼に臨んで言つた、九「立つてシドンに属するザレバテへ行つて、そこに住みなさい。わたしはそのところのやもめ女に命じてあなたを養わせよう」。一〇 そこで彼は立つてザレバテへ行つたが、町の門に着いたとき、ひとりのやもめ女が、その所でたぎぎを拾つていた。彼はその女に声をかけて言つた、「器に水を少し持つてきて、わたしに飲ませてください」。二 彼女が行つて、それを持つてこようとした時、彼は彼女を呼

んで言った、「手に一口のパンを持ってきてください」。三彼女は言った、「あなたの神、主は生きておられます。わたしにはパンはありません。ただ、かめに一握りの粉と、びんに少しの油があるだけです。今わたしはたきぎ二、三本を拾い、うちへ帰って、わたしと子供のためにそれを調理し、それを食べて死のうとしているのです」。三エリヤは彼女に言った、「恐れるにはおよばない。行って、あなたが言ったとおりになさい。しかしまず、それでわたしのために小さいパンを、一つ作って持ってきてなさい。その後、あなたと、あなたの子供のために作りなさい。二『主が雨を地のおもてに降らす日まで、かめの粉は尽きず、びんの油は絶えない』とイスラエルの神、主が言われるからです。一五彼女は行って、エリヤが言ったとおりにした。彼女と彼および彼女の家族は久しく食べた。一六主がエリヤによって言われた言葉のように、かめの粉は尽きず、びんの油は絶えなかった。一七これらの事後、その家の主婦であるこの女の男の子が病気になった。その病気はたいそう重く、息が絶えたので、一八彼女はエリヤに言った、「神の人よ、あなたはわたしに、何の恨みがあるのですか。あなたはわたしの罪を思い出させるため、またわたしの子を死なせるためにおいでになったのですか」。一九エリヤは彼女に言った、「子をわたしによこしなさい。そして彼女のふところから子供を取り、自分のいる屋上のへやへかかえて上り、

自分の寝台に寝かせ、二〇主に呼ばわって言った、「わが神、主よ、あなたはわたしに宿っている家のやもめにさえ災をくだして、子供を殺されるのですか」。三そして三度その子供の上に身を伸ばし、主に呼ばわって言った、「わが神、主よ、この子供の魂をもとに帰らせてください」。三主はエリヤの声を聞きいれたので、その子供の魂はもとに帰って、彼は生きかえった。三エリヤはその子供を取って屋上のへやから家の中につれて降り、その母にわたして言った、「ごらんなさい。あなたの子は生きかえりました」。二四女はエリヤに言った、「今わたしはあなたに神の人であることを知りました」。二五主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。二六主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。二七主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。二八主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。二九主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。三〇主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。三一主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。三二主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。三三主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。三四主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。三五主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。三六主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。三七主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。三八主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。三九主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。四〇主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。四一主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。四二主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。四三主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。四四主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。四五主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。四六主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。四七主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。四八主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。四九主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。五〇主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。五一主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。五二主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。五三主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。五四主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。五五主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。五六主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。五七主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。五八主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。五九主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。六〇主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。六一主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。六二主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。六三主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。六四主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。六五主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。六六主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。六七主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。六八主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。六九主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。七〇主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。七一主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。七二主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。七三主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。七四主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。七五主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。七六主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。七七主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。七八主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。七九主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。八〇主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。八一主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。八二主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。八三主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。八四主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。八五主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。八六主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。八七主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。八八主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。八九主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。九〇主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。九一主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。九二主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。九三主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。九四主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。九五主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。九六主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。九七主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。九八主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。九九主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。一〇〇主はエリヤに言った、「あなたの子は生きかえりました」。

であろう。六彼らは行き巡る地をふたりで分け、アハブはひとりでこの道を行き、オバデヤはひとりで他の道を行った。

七オバデヤが道を進んでいた時、エリヤが彼に会った。彼はエリヤを認めて伏して言った、「わが主エリヤよ、あなたはここにおられるのですか」。八エリヤは彼に言った、「そうです。行って、あなたの主人に、エリヤはここにいると告げなさい」。九彼は言った、「わたしにどんな罪があつて、あなたはしもべをアハブの手になたして殺そうとされるのですか。一〇あなたの神、主は生きておられます。わたしの主人があなたを尋ねるために、人をつかわさない民はなく、国もありません。そしてエリヤはいないと言う時は、その国、その民に、あなたが見つからないという誓いをさせるのです。二あなたは今『行って、エリヤはここにいとると主人に告げよ』と言われます。三しかしわたしがあなたを離れて行くと、主の霊はあなたを、わたしの知らない所へ連れて行くでしょう。わたしが行ってアハブに告げ、彼があなたを見つけることができるならば、彼はわたしを殺すでしょう。しかし、しもべは幼い時から主を恐れている者です。四イゼベルが主の預言者を殺した時に、わたしがした事、すなわち、わたしが主の預言者のうち百人を五十人ずつほら穴に隠して、パンと水をもって養った事を、わが主は聞かれませんでしたか。五ところが今あなたは『行って、エリヤは

ここにいとると主人に告げよ』と言われます。そのようなことをすれば彼はわたしを殺すでしょう。六エリヤは言った、「わたしの仕える万軍の主は生きておられる。わたしは必ず、きよう、わたしの身を彼に示すであろう。七オバデヤは行ってアハブに会い、彼に告げたので、アハブはエリヤに会おうとして行つた。

八アハブはエリヤを見たとき、彼に言った、「イスラエルを悩ます者よ、あなたはここにいるのですか」。九彼は答えた、「わたしがイスラエルを悩ますものではありません。あなたは、あなたの父の家が悩ましたのです。あなたがたが主の命令を捨て、バアルに従つたためです。一〇それで今、人をつかわしてイスラエルのすべての人およびバアルの預言者四百五十人、ならびにアシラの預言者四百人、イゼベルの食卓で食事する者たちをカルメル山に集めて、わたしの所にこさせなさい」。

一一そこでアハブはイスラエルのすべての人に人をつかわして、預言者たちをカルメル山に集めた。一二そのときエリヤはすべての民に近づいて言った、「あなたがたはいつまで二つのものの間に迷っているのですか。主が神ならばそれに従いなさい。しかしバアルが神ならば、それに従いなさい」。民はひと言も彼に答へなかった。一三エリヤは民に言った、「わたしはただひとり残つた主の預言者です。しかしバアルの預言者は四百五十人あります。一四われわれに二頭の牛をください。そして一頭の牛を彼



らに選ばせ、それを切り裂いて、たきぎの上に載せ、それに火をつけずにおかせなさい。わたしも一頭の牛を整え、それをたきぎの上に載せて火をつけずにおきましよう。二四 こうしてあなたがたはあなたがたの神の名を呼びなさい。わたしは主の名を呼びましよう。そして火をもって答える神を神としましょう。民は皆答えて「それがよからう」と言った。二五 そこでエリヤはバアルの預言者たちに言った、「あなたがたは大ぜいだから初めに一頭の牛を選んで、それを整え、あなたがたの神の名を呼びなさい。ただし火をつけてはなりません。二六 彼らは与えられた牛を取って整え、朝から昼までバアルの名を呼んで「バアルよ、答えてください」と言った。しかし自分の声もなく、また答える者もなかった。彼らは自分たちの造った祭壇のまわりに踊った。二七 昼になってエリヤは彼らをあざけて言った、「彼は神だから、大声をあげて呼びなさい。彼は考えにふけているのか、よそへ行ったのか、旅に出たのか、または眠っていて起されなければならぬのか。二八 そこで彼らは大声に呼ばわり、彼らのならわしに従って、刀とやりで身を傷つけ、血をその身に流すに至った。二九 こうして昼が過ぎても彼らはなお叫び続けて、夕の供え物をささげる時にまで及んだ。しかしなんの声もなく、答える者もなく、また顧みる者もなかった。

三〇 その時エリヤはすべての民にむかって「わたしに近

寄りなさい」と言ったので、民は皆彼に近寄った。彼はこわれている主の祭壇を繕った。三一 そしてエリヤは昔、主の言葉がヤコブに臨んで、「イスラエルをあなたの名とせよ」と言われたヤコブの子らの部族の数にしたがって十二の石を取り、三二 その石で主の名によって祭壇を築き、祭壇の周囲に種二セヤをいれるほどの大きさの、みぞを作った。三三 また、たきぎを並べ、牛を切り裂いてたきぎの上に載せて言った、「四つのかめに水を満たし、それを燔祭とたきぎの上に注げ」。三四 また言った、「それを二度せよ」。二度それをする、また言った、「三度それをせよ」。三度それをした。三五 水は祭壇の周囲に流れた。またみぞにも水を満たした。三六 夕の供え物をささげる時になって、預言者エリヤは近寄って言った、「アブラハム、イサク、ヤコブの神、主よ、イスラエルでは、あなたが神であること、わたしがあなたのしもべであって、あなたの言葉に従ってこのすべての事を行ったことを、今日知らせてください。三七 主よ、わたしに答えてください、わたしに答えてください。主よ、この民にあなたが神であること、またあなたが彼らの心を翻されたのであることを知らせてください」。三八 そのとき主の火が下って燔祭と、たきぎと、石と、ちりとを焼きつくし、またみぞの水をなめつくした。三九 民は皆見て、ひれ伏して言った、「主が神である。主が神である」。四〇 エリヤは彼らに言った、「バアルの預言者を捕

えよ。そのひとりも逃がしてはならない。そこで彼ら  
を捕えたので、エリヤは彼らをキシヨン川に連れくだつ  
て、そこで彼らを殺した。

四二 エリヤはアハブに言った、「大雨の音がするから、  
上って行って、食ひ飲みしなさい」。四三 アハブは食ひ飲み  
するために上っていった。しかしエリヤはカルメルの頂  
に登り、地に伏して顔をひざの間にに入れていたが、四四 彼  
はしもべに言った、「上って行って海の方を見なさい」。  
彼は上って行って、見て、「何もありません」と言ったの  
で、エリヤは「もう一度行きなさい」と言って七度に及  
んだ。四五 七度目にしもべは言った、「海から人の手ほどの  
小さな雲が起っています」。エリヤは言った、「上って  
行って、『雨にとどめられないように車を整えて下れ』と  
アハブに言いなさい」。四六 すると間もなく、雲と風が起  
り、空が黒くなって大雨が降ってきた。アハブは車に  
乗ってエズレルへ行つた。四七 また主の手がエリヤに臨ん  
だので、彼は腰をからげ、エズレルの入口までアハブの  
前に走っていった。

第一章 アハブはエリヤのしたすべての事、ま  
た彼がすべての預言者を刀で殺したことをイゼベルに告  
げたので、イゼベルは使者をエリヤにつかわして言つ  
た、「もしわたしが、あすの今ごろ、あなたの命をあの人  
人のひとりの命のようにしていないならば、神々がどん  
なにでも、わたしを罰してくださるように」。四八 そこでエ

リヤは恐れて、自分の命を救うために立つて逃げ、ユダ  
に属するベエルシバへ行つて、しもべをそこに残し、  
四九 自分は一日の道のりほど荒野にはいつて行って、れだ  
まの木の下に座し、自分の死を求めて言った、「主よ、も  
はや、じゅうぶんです。今わたしの命を取ってください。  
わたしは先祖にまさる者ではありません」。五〇 彼はれだま  
の木の下に伏して眠つたが、天の使が彼にさわり、「起き  
て食べなさい」と言ったので、六一 起きて見ると、頭のそ  
ばに、焼け石の上で焼いたパン一個と、一びんの水が  
あった。彼は食べ、かつ飲んでまた寝た。五一 主の使は再  
びきて、彼にさわつて言った、「起きて食べなさい。道が  
遠くて耐えられないでしょうから」。五二 彼は起きて食べ、  
かつ飲み、その食物で力づいて四十日四十夜行つて、神  
の山ホレブに着いた。

五三 その所で彼はほら穴にはいつて、そこに宿つたが、主  
の言葉が彼に臨んで、彼に言われた、「エリヤよ、あなた  
はここで何をしているのか」。五四 彼は言った、「わたしは  
万軍の神、主のために非常に熱心でありました。イスラ  
エルの人々はあなたの契約を捨て、あなたの祭壇をこわ  
し、刀をもってあなたの預言者たちを殺したのです。た  
だわたしだけ残りましたが、彼らはわたしの命を取ろう  
としています」。五五 主は言われた、「出て、山の上で主の  
前に、立ちなさい」。五六 その時主は通り過ぎられ、主の前に  
大きな強い風が吹き、山を裂き、岩を砕いた。しかし主

は風の中におられなかった。風の後に地震があつたが、地震の中にも主はおられなかった。二地震の後に火があつたが、火の中にも主はおられなかった。火の後に静かな細い声が聞えた。三エリヤはそれを聞いて顔を外套に包み、出てほら穴の口に立つと、彼に語る声が聞えた。「エリヤよ、あなたはここで何をしているのか」。四彼は言った、「わたしは万軍の神、主のために非常に熱心でありました。イスラエルの人々はあなたの契約を捨て、あなたの祭壇をこわし、刀であなたの預言者たちを殺したからです。ただわたしだけ残りましたが、彼らはわたしの命を取ろうとしています」。五主は彼に言われた、「あなたの道を帰って行って、ダマスコの荒野におもむき、ダマスコに着いて、ハザエルに油を注ぎ、スリヤの王としなさい。六またニムシの子エヒウに油を注いでイスラエルの王としなさい。またアベルメホラのシャパテの子エリヤに油を注いで、あなたに代って預言者としなさい。七ハザエルのつるぎをのがれる者をエヒウが殺し、エヒウのつるぎをのがれる者をエリヤが殺すであらう。八また、わたしはイスラエルのうちに七千人を残すであらう。皆バアルにひざをかめず、それに口づけしない者である」。

九さてエリヤはそこを去って行って、シャパテの子エリヤに会った。彼は十二くびきの牛を前に行かせ、自分分は十二番目のくびきと共にいて耕していた。エリヤは

彼のかたわらを通り過ぎて外套を彼の上にかけた。二エリヤは牛を捨て、エリヤのあとに走ってきて言った、「わたしの父母に口づけさせてください。そして後あなたに従いましょう」。エリヤは彼に言った、「行ってきなさい。わたしはあなたに何をしましたか」。三エリヤは彼を離れて帰り、ひとくびきの牛を取って殺し、牛のくびきを燃やしてその肉を煮、それを民に与えて食べさせ、立つて行ってエリヤに従い、彼に仕えた。

第二〇章 一スリヤの王ベネハダはその軍勢をことごとく集めた。三十二人の王が彼と共におり、また馬と戦車もあつた。彼は上つてサマリヤを囲み、これを攻めた。二また彼は町に使者をつかわし、イスラエルの王アハブに言った、「ベネハダはこう申します、三あなたのお金銀はわたしのもの、またあなたの妻たちと子供たちの最も美しい者もわたしのものです。四イスラエルの王は答えた、「王、わが主よ、仰せのとおり、わたしとわたしの持ち物は皆あなたのものです」。五使者は再びきて言った、「ベネハダはこう申します、六わたしはさきに人をつかわして、あなたの金銀、妻子を引きわたせと言いました。七しかし、あすの今ごろ、しもべたちをあなたにつかわします。彼らはあなたの家と、あなたの家の家を探つて、すべて彼らの氣にいる物を手に入れて奪い去るでしょう」。

そこでイスラエルの王は国の長老をことごとく召し



て言った、「よく注意して、この人が無理な事を求めているのを知りなさい。彼は人をつかわして、わたしの妻子と金銀を求めたが、わたしはそれを拒まなかった」。すべての長老および民は皆彼に言った、「聞いてはなりません。承諾してはなりません」。それで彼はベネハダデの使者に言った、「王、わが主に告げなさい。『あなたが初めに要求されたことは皆いたしましょう。しかし今度の事はできません』。使者は去って復命した。ベネハダデは彼に人をつかわして言った、「もしサマリヤのちりが、わたしに従うすべての民の手を満たすに足りるならば、神々がどんなにでも、わたしを罰してください」。ニイスラエルの王は答えた、『武具を帯びる者は、それを脱ぐ者のように誇ってはならない』と告げなさい。ベネハダデは仮小屋で、王たちと酒を飲んでいたが、この事を聞いて、その家来たちに言った、『戦いの備えをせよ』。彼らは町にむかって戦いの備えをした。

三 この時ひとりの預言者がイスラエルの王アハブのもとにきて言った、『主はこう仰せられる、『あなたはこの大軍を見たか。わたしはきょう、これをあなたの手にわたす。あなたは、わたしが主であることを、知るようになるであろう』。』アハブは言った、『だれにさせましょうか』。彼は言った、『主はこう仰せられる、『地方の代官の家来たちにさせよ』。』アハブは言った、『だれが戦いを始めましょうか』。彼は答えた、『あなたです』。二五そこで

アハブは地方の代官の家来たちを調べたところ二百三十二人あった。次にすべての民、すなわちイスラエルのすべての人を調べたところ七千人あった。

二六 彼らは昼ごろ出ていったが、ベネハダデは仮小屋で、味方の三十二人の王たちと共に酒を飲んで酔っていた。モ地方の代官の家来たちが先に出ていった。ベネハダデは斥候をつかわしたが、彼らは「サマリヤから人々が出てきた」と報告したので、『彼は言った、『和解のために出てきたのであっても、生どりにせよ。また戦いのために出てきたのであっても、生どりにせよ』。』

二九 地方の代官の家来たちと、それに従う軍勢が町から出ていって、三〇 おのおのその相手を撃ち殺したので、スリヤびとは逃げた。イスラエルはこれを追ったが、スリヤの王ベネハダデは馬に乗り、騎兵を従えてのがれた。ニイスラエルの王は出ていって、馬と戦車をぶんどり、また大いにスリヤびとを撃ち殺した。

三三 時に、かの預言者がイスラエルの王のもとにきて言った、『行って、力を養い、なすべき事をよく考えなさい。来年の春にはスリヤの王が、あなたのところに攻め上ってくるからです』。

三三 スリヤの王の家来たちは王に言った、『彼らの神々は山の神ですから彼らがわれわれよりも強かったです。もしわれわれが平地で戦うならば、必ず彼らよりも強いでしょう。』二四 それでこうしなさい。王たちをおのおのそ

の地位から退かせ、総督を置いてそれに代らせなさい。  
 二五 またあなたが失った軍勢に等しい軍勢を集め、馬は馬、戦車は戦車をもつて補いなさい。こうしてわれわれが平地で戦うならば必ず彼らよりも強いでしょう。彼はその言葉を聞きいれて、そのようにした。

二六 春になって、ベネハダデはスリヤびとを集めて、イスラエルと戦うために、アベクに上ってきた。二七 イスラエルの人々は召集され、糧食を受けて彼らを迎え撃つた。めに出かけた。イスラエルの人々はやぎの二つの小さい群れのように彼らの前に陣取ったが、スリヤびとはその地に満ちていた。二八 その時神の人がきて、イスラエルの王に言った、「主はこう仰せられる、『スリヤびとが、主は山の神であつて、谷の神ではないと言っているから、わたしはこのすべての大軍をあなたの手にわたす。あなたは、わたしが主であることを知るようになるであろう』。二九 彼らは七日の間、互にむかいあつて陣取り、七日目になつて戦いを交えたが、イスラエルの人々は一日にスリヤびとの歩兵十万人を殺した。三〇 そのほかの者はアベクの町に逃げこんだが、城壁がくずれて、その残つた二万七千人の上に倒れた。

ベネハダデは逃げて町に入り、奥の間にはいった。三 家来たちは彼に言った、「イスラエルの家の王たちはあわれみ深い王であると聞いています。それでわれわれの腰に荒布をつけ、くびになわをかけて、イスラエルの王

の所へ行かせてください。たぶん彼はあなたの命を助けるでしょう。三二 そこで彼らは荒布を腰にまき、なわをくびにかけてイスラエルの王の所へ行つて言った、「あなたのしもべベネハダデが『どうぞ、わたしの命を助けてください』と申しています。アハブは言った、「彼はまだ生きているのですか。彼はわたしの兄弟です。三三 その人々はこれを吉兆としてすみやかに彼の言葉をうけ、『そうです。ベネハダデはあなたの兄弟です』と言ったので、彼は言った、「行つて彼をつれてきなさい。それでベネハダデは彼の所に出てきたので、彼はこれ自分の車に乗せた。三四 ベネハダデは彼に言った、「わたしの父が、あなたの父上から取った町々は返します。またわたしの父がサマリヤに造つたように、あなたはダマスコに、あなたのために市場を設けなさい。アハブは言った、「わたしはこの契約をもつてあなたを帰らせましょう。こうしてアハブは彼と契約を結び、彼を帰らせた。三五 さて預言者のともがらのひとりが主の言葉に従つてその仲間と言つた、「どうぞ、わたしを撃つてください。しかしその人は撃つことを拒んだので、三六 彼はその人に言つた、「あなたは主の言葉に聞き従わないうえ、わたしを離れて行くとすぐ、ししがあなたを殺すでしょう。その人が彼のそばを離れて行くとすぐ、ししが彼に会つて彼を殺した。三七 彼はまたほかの人に会つて言つた、「どうぞ、わたしを撃つてください。するとその人は彼を撃

ち、撃つて傷つけた。三八こうしてその預言者は行って、道のかたわらで王を待ち、目にほうたいを当てて姿を変えていた。三九王が通り過ぎる時、王に呼ばわって言った、「しもべはいくさの中に出て行きましたが、ある軍人が、ひとりの人をわたしの所につれてきて言いました、『この人を守っていなさい。もし彼がいなくなれば、あなたの命を彼の命に代えるか、または銀一タラントを払わなければならぬ』。四〇ところが、しもべはあちらこちらと忙しくしていたので、ついに彼はいなくなりました」。イスラエルの王は彼に言った、「あなたはそれとおりにさばかれなければならぬ。あなたが自分でそれを定めたのです」。四一そこで彼が急いで目のほうたいを取り除いたので、イスラエルの王はそれが預言者のひとりであることを知った。四二彼は王に言った、「主はこう仰せられる、『わたしが滅ぼそうと定めた人を、あなたは自分の手から放して行かせたので、あなたの命は彼の命に代り、あなたの民は彼の民に代るであらう』と」。四三イスラエルの王は悲しみ、かつ怒って自分の家におもむき、サマリヤに帰った。

第二章 「さてエズレルびとナボテはエズレルにぶどう畑をもっていたが、サマリヤの王アハブの宮殿のかたわらにあったので、ニアハブはナボテに言った、「あなたのぶどう畑はわたしの家の近くにあるので、わたしに譲って青物畑にさせていただきます。その代り、わた

しはそれよりも良いぶどう畑をあなたにあげましょう。もしお望みならば、その価を金でさしあげましょう」。三ナボテはアハブに言った、「わたしは先祖の嗣業をあなたに譲ることを断じていたしません」。四アハブはエズレルびとナボテが言った言葉を聞いて、悲しみ、かつ怒って家にはいった。ナボテが「わたしは先祖の嗣業をあなたに譲りません」と言ったからである。アハブは床に伏し、顔をそむけて食事をしなかった。

五妻イゼベルは彼の所にきて、言った、「あなたは何をそんなに悲しんで、食事をなさらないのですか」。六彼は彼女に言った、「わたしはエズレルびとナボテに『あなたのぶどう畑を金で譲ってください。もし望むならば、その代りに、ほかのぶどう畑をあげよう』と言ったが、彼は答えて『わたしはぶどう畑を譲りません』と言ったからだ」。七妻イゼベルは彼に言った、「あなたが今イスラエルを治めているのですか。起きて食事をし、元氣を出してください。わたしがエズレルびとナボテのぶどう畑をあなたにあげます」。

八彼女はアハブの名で手紙を書き、彼の印をおして、ナボテと同じように、その町に住んでいる長老たちと身分の尊い人々に、その手紙を送った。九彼女はその手紙に書きしるした、「断食を布告して、ナボテを民のうちの高い所にすわらせ、<sup>一〇</sup>またふたりのよこしまな者を彼の前にすわらせ、そして彼を訴えて、『あなたは神と王とを



のろつた」と言わせなさい。こうして彼を引き出し、石で撃ち殺しなさい。二その町の人々、すなわち、その町に住んでいる長老たちおよび身分の尊い人々は、イゼベルが言いつかわしたようにした。彼女が彼らに送った手紙に書きしるされていたように、三彼らは断食を布告して、ナボテを民のうちの高い所にすわらせた。四そしてふたりのよこしまな者はいってきて、その前にすわり、そのよこしまな者たちが民の前でナボテを訴えて、「ナボテは神と王とをのろつた」と言つた。そこで人々は彼を町の外に引き出し、石で撃ち殺した。五そして人はイゼベルに「ナボテは石で撃ち殺された」と言い送つた。

六イゼベルはナボテが石で撃ち殺されたのを聞くとすぐ、アハブに言つた、「立つて、あのエズレルびとナボテが、あなたに金で譲ることを拒んだぶどう畑を取りなさい。ナボテは生きていません。死んだのです」。七アハブはナボテの死んだのを聞くとすぐ、立つて、エズレルびとナボテのぶどう畑を取るために、そこへ下つていった。

八そのとき、主の言葉がテシベびとエリヤに臨んだ。九「立つて、下つて行き、サマリヤにいるイスラエルの王アハブに会いなさい。彼はナボテのぶどう畑を取ろうとしてそこへ下つてゐる。一〇あなたは彼に言わなければならぬ、『主はこう仰せられる、あなたは殺したのか、

また取つたのか』と。また彼に言いなさい、『主はこう仰せられる、犬がナボテの血をなめた場所で、犬があなたの血をなめるであらう』。

二〇アハブはエリヤに言つた、「わが敵よ、ついに、わたしを見つけたのか」。彼は言つた、「見つけました。あなたが主の目の前に悪を行うことに身をゆだねたゆえ、三わたしはあなたに災を下し、あなたを全く滅ぼし、アハブに属する男は、イスラエルにいてつなかれた者も、自由な者もことごとく断ち、四またあなたの家をネバテの子ヤラベアムの家のようにし、アヒヤの子バアシャの家のようにするでしょう。これはあなたがわたしを怒らせた怒りのゆえ、またイスラエルに罪を犯させたゆえです。五イゼベルについて、主はまた言われました、『犬がエズレルの地域でイゼベルを食うであらう』と。六アハブに属する者は、町で死ぬ者を犬が食い、野で死ぬ者を空の鳥が食うでしょう」。

七アハブのように主の目の前に悪を行うことに身をゆだねた者はなかった。その妻イゼベルが彼をそそのかしたのである。八彼は主がイスラエルの人々の前から追ひ払われたアモリびとがしたように偶像に従つて、はなはだ憎むべき事を行った。

九アハブはこれらの言葉を聞いた時、衣を裂き、荒布を身にまとい、食を断ち、荒布に伏し、打ちしおれて歩いた。一〇この時、主の言葉がテシベびとエリヤに臨んだ、

二九「アハブがわたしの前にへりくだっているのを見たか。彼がわたしの前にへりくだっているゆえ、わたしは彼の世には災を下さない。その子の世に災をその家に下すであらう」。

第二二章 「スリヤとイスラエルの間に戦争がな

くて三年を経た。しかし三年目にユダの王ヨシヤバテがイスラエルの王の所へ下っていったので、イスラエルの王はその家来たちに言った、「あなたがたは、ラモテ・ギレアデがわれわれの所有であることを知っていますか。しかもなおわれわれはスリヤの王の手からそれを取らずに黙っているのです」。彼はヨシヤバテに言った、「ラモテ・ギレアデで戦うためにわたしと一緒に行かれませんか」。ヨシヤバテはイスラエルの王に言った、「わたしはあなたと一つです。わたしの民はあなたの民と一つです。わたしの馬はあなたの馬と一つです」。

五ヨシヤバテはまたイスラエルの王に言った、「まず、主の言葉を伺いなさい」。六そこでイスラエルの王は預言者四百人ばかりを集めて、彼らに言った、「わたしはラモテ・ギレアデに戦いに行くべきでしょうか、あるいは控えるべきでしょうか」。彼らは言った、「上っていきなさい。主はそれを王の手にわたされるでしょう」。七ヨシヤパテは言った、「ここには、われわれの問うべき主の預言者がほかにいませんか」。八イスラエルの王はヨシヤバテに言った、「われわれが主に問うことのできる人が、まだ

ひとりいます。イムラの子ミカヤです。彼はわたしについて良い事を預言せず、ただ悪い事だけを預言するので、わたしは彼を憎んでいます」。ヨシヤバテは言った、「王よ、そう言わないでください」。九そこでイスラエルの王は役人を呼んで、「急いでイムラの子ミカヤを連れてきなさい」と言った。一〇さてイスラエルの王およびユダの王ヨシヤバテは王の服を着て、サマリヤの門の人口の広場に、おのおのその王座にすわり、預言者たちは皆その前で預言していた。二ケナアナの子ゼデキヤは鉄の角を造って言った、「主はこう仰せられます、『あなたはこれらの角をもってスリヤびとを突いて彼らを滅ぼしなさい』」。三預言者たちは皆そのように預言して言った、「ラモテ・ギレアデに上って行って勝利を得なさい。主はそれを王の手にわたされるでしょう」。

四さてミカヤを呼びにいった使者は彼に言った、「預言者たちは一致して王に良い事を言いました。どうぞ、あなたも、彼らのひとりの言葉のようにして、良い事を言ってください」。五ミカヤは言った、「主は生きておられます。主がわたしに言われる事を申しませう」。六彼が王の所へ行くと、王は彼に言った、「ミカヤよ、われわれはラモテ・ギレアデに戦いに行くべきでしょうか、あるいは控えるべきでしょうか」。彼は王に言った、「上って行って勝利を得なさい。主はそれを王の手にわたされるでしょう」。七しかし王は彼に言った、「幾たび

あなたを誓わせたなら、あなたは主の名をもって、ただ真実のみをわたしに告げるでしようか。一七彼は言った、「わたしはイスラエルが皆、牧者のない羊のように、山に散っているのを見ました。すると主は『これらの者は飼主がいらない。彼らをそれぞれ安らかに、その家に帰らせよ』と言われました。一八イスラエルの王はヨシャパテに言った、「彼がわたしについて良い事を預言せず、ただ悪い事だけを預言すると、あなたに告げたではありませんか。一九ミカヤは言った、「それゆえ主の言葉を聞きなさい。わたしは主がその玉座にすわり、天の万軍がそのかたわらに、右左に立っているのを見たが、二〇主は『だれがアハブをいざなうてラモテ・ギレアドに上らせ、彼を倒れさせるであろうか』と言われました。するとひとりはこの事を言い、ひとりはほかの事を言いました。二三その時一つの霊が進み出て、主の前に立ち、『わたしが彼をいざないましょう』と言いました。二三主は『どのよいうな方法でするか』と言われたので、彼は『わたしが出て行って、偽りを言う霊となって、すべての預言者の口に宿りましょう』と言いました。そこで主は『おまえは彼をいざなうて、それを成し遂げるであろう。出て行って、そうしなさい』と言われました。二三それで主は偽りを言う霊をあなたのすべての預言者の口に入れ、また主はあなたの身に起る災を告げられたのです」。

二四するとケナアナの子ゼデキヤは近寄って、ミカヤの

ほおを打って言った、「どのようなにして主の霊がわたしを離れて、あなたに語りましたか。二五ミカヤは言った、「あなたが奥の間にはいつて身を隠すその日に、わかるでしよう。二六イスラエルの王は言った、「ミカヤを捕え、町のつかさアモンと、王の子ヨアシの所へ引いて帰って、二七言いなさい、『王がこう言います、この者を獄屋に入れ、わずかのパンと水をもって彼を養い、わたしが勝利を得て帰ってくるのを待て』。二八ミカヤは言った、「もしあなたが勝利を得て帰ってこられるならば、主がわたしによつて語られなかったのです。また彼は言った、「あなたがた、すべての民よ、聞きなさい」。

二九こうしてイスラエルの王とエダの王ヨシャパテはラモテ・ギレアドに上つていった。三〇イスラエルの王はヨシャパテに言った、「わたしは姿を変えて、戦いに行きます。あなたは王の服を着けなさい」。イスラエルの王は姿を変えて戦いに行った。三二さて、スリヤの王は、その戦車長三十二人に命じて言った、「あなたがたは、小さい者とも大きい者とも戦わないで、ただイスラエルの王とだけ戦いなさい」。三三戦車長らはヨシャパテを見たとき、これはきつとイスラエルの王だと思つたので、身をめぐらして、これと戦おうとすると、ヨシャパテは呼ばわつた。三三戦車長らは彼がイスラエルの王でないのを見たので、彼を追うことをやめて引き返した。三三しかし、ひとりの人が何心なく弓をひいて、イスラエルの王の胸当て



草摺の間を射たので、彼はその戦車の御者に言った、「わたしは傷を受けた。戦車をめぐらして、わたしを戦場から運び出せ」。三五その日戦いは激しくなった。王は戦車の中にささえられて立ち、スリヤびとにむかつていたが、ついに、夕暮になって死んだ。傷の血は戦車の底に流れた。三六日の没するころ、軍勢の中に呼ばわる声がした、「めいめいその町へ、めいめいその国へ帰れ」。

三七王は死んで、サマリヤへ携え行かれた。人々は王をサマリヤに葬った。三八またその戦車をサマリヤの池で洗ったが、犬がその血をなめた。また遊女がそこで身を洗った。主が言われた言葉のとおりである。三九アハブのそのほかの事績と、彼がしたすべての事と、その建てた象牙の家と、その建てたすべての町は、イスラエルの王の歴代志の書にしるされてはいないか。四〇こうしてアハブはその先祖と共に眠って、その子アハジャが代つて王となった。

四一アサの子ヨシャパテはイスラエルの王アハブの第四年にユダの王となった。四二ヨシャパテは王となった時、三十五歳であったが、エルサレムで二十五年世を治めた。その母の名はアズバといい、シルヒの娘であった。四三ヨシャパテは父アサのすべての道に歩み、それを離れることなく、主の目にかなう事をした。ただし高き所は除かなかったので、民はなお高き所で犠牲をささげ、香

をたいた。四四ヨシャパテはまたイスラエルの王と、よしみを結んだ。

四五ヨシャパテのその他の事績と、彼があらわした勲功およびその戦争については、ユダの王の歴代志の書に示るされているではないか。四六彼は父アサの世になお残っていた神殿男娼たちを国のうちから追い払った。

四七そのころエドムには王がなく、代官が王であった。四八ヨシャパテはタルシシの船を造って、金を獲るためにオフルに行かせようとしたが、その船はエジオン・ゲベルで難破したため、ついに行かなかった。四九そこでアハブの子アハジャはヨシャパテに「わたしの家来をあなたの家来と一緒に船で行かせなさい」と言ったが、ヨシャパテは承知しなかった。五〇ヨシャパテはその先祖と共に眠って、父ダビデの町に先祖と共に葬られ、その子ヨラムが代つて王となった。

五一アハブの子アハジャはユダの王ヨシャパテの第十七年にサマリヤでイスラエルの王となり、二年イスラエルを治めた。五二彼は主の目の前に悪を行い、その父の道と、その母の道、およびかのイスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤラバアムの道に歩み、五三バアルに仕えて、それを拝み、イスラエルの神、主を怒らせた。すべて彼の父がしたとおりであった。